

東海地区

# 大学図書館協議会誌



63

2018

東海地区大学図書館協議会

目 次

巻 頭 言	大学図書館の昨今を思う 愛知大学図書館長	西野 基継	1
講 演 要 旨	レファレンス（現場からの具体的な事例紹介） 名古屋大学附属図書館	佐藤 美穂	2
講 演 要 旨	「図書館若手職員の経験談」 図書受入・目録関係 静岡文化芸術大学図書館・情報センター	井出 直樹	4
講 演 要 旨	図書館若手職員の経験談 WEB サービス関係 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館	東槇 典子	7
講 演 要 旨	図書館若手職員の経験談 閲覧関係 名古屋大学理学図書室	鰐部 美香	8
講 演 要 旨	「これからの図書館員に期待するもの」 図書館コミュニケーションデザイナー	押樋 良樹	10
講 演 要 旨	「朝刊の記事から POP を作り、2 時間以内に資料を展示 －安城市図書情報館「日めぐり展示」にチャレンジャー－」を実施して 愛知県立大学長久手キャンパス図書館 図書情報課長	松森隆一郎	11
講 演 要 旨	新たな学習交流拠点を目指して － 神田外語大学附属図書館の活性化、そしてこれからの取り組み － 神田外語大学附属図書館 課長	吉野 知義	21
講 演 要 旨	司書課程と連動した学生協働の取り組み 武庫川女子大学附属図書館 図書課長	川崎 安子	31
行 事	第 72 回（2018 年度）東海地区大学図書館協議会 総会・研究集会		37
施 設 紹 介	静岡大学附属図書館浜松分館		44
	愛知教育大学附属図書館		45
	名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ		46
会 則 等			48
総会当番館一覧			52
加盟館一覧			53
役員館一覧			57
研修会一覧			59
広告主一覧			

## 大学図書館の昨今を思う

愛知大学図書館長

西野基継

このたび、第72回（2018年度）東海地区大学図書館協議会の総会・研究集会が、愛知大学名古屋キャンパスで開催された。今年は、記録的な猛暑と度重なる台風の上陸で記憶されるであろうが、この会議も台風の接近が伝えられる中で、コースと上陸時間がずれてくれたおかげで開くことができた次第である。午前には総会行事が行われ、午後の研究集会は、『新たな知を創出する大学図書館の取り組み』というテーマで、神田外大の吉野知義氏の「新たな学習交流拠点を目指して」と武庫川女子大学の川崎安子氏の「司書過程と連動した学生協働の取り組み」という二つの講演が行われ、その先進的な取り組みに熱い関心が寄せられた。

私は、法学の基礎部門の法哲学を研究する典型的な文系人間である。1970年代に大学生活を始め、半世紀近く大学の中で生きてきたことになる。この間の大学図書館の歩みを振り返ると、その大きな変貌に驚かされる。学生だった頃は、大きな閲覧室に並べられた長机に腰かけて静かに本を読み、読みたい本があるときには木箱ケースの目録カードをめくって探すというものであった。こういう原体験をもつ人間から見ると、20世紀後半から始まった社会全体の電子化・情報化がもたらした図書館の変革には驚かされる。一言でいえば、図書資料の表示形態とアクセスにおける紙媒体から電子媒体への大転換である。紙は（触ることのできる）有体物で、場にとどまっているが、電子は（触ることのできない）無体物で、場を超えて流れている。この特性が、これまで考えられなかった可能性を秘めている。例えば、図書の検索システムは、90年代後半からOPAC（Online Public Access Catalog）が導入され、当初は大学内の図書資料の範囲に留まっていたが、後にこの狭い枠を突破して、およそ日本のすべての大学の図書資料の所在を容易に知ることができるようになった。紙の図書カードを利用している大学図書館は、現在ではないであろう。図書資料の表示形態は、紙媒体から電子媒体への変換が大規模に進行している。出版社や公的機関が、図書資料をデジタル化して、多様な図書資料を整理して、オンラインで提供するサービスを行っている。大学・研究機関が主体となって所属研究者の知的産物を電子的に収集・蓄積・提供するシステムまたはそのサービス（機関リポジトリ）、さらに文化的価値の高い知的財産をデジタル情報として記録して、永久保存するとともにネットワークを用いて提供するシステム（デジタル・アーカイブス）も登場して、中でも先駆的・ラストリゾート的役割を果たしているのが、「国立国会図書館デジタルアーカイブシステム」である。このようにサイバー空間に知的資源が集約的に蓄積され、それへのアクセスがどこからでもできること（オープンアクセス）は、情報化社会の大きな恩恵である。しかし、電子図書館へ一気に突入することは難しいようにみえる。電子媒体資料の普及と利用の頻度は、研究分野の間でかなりの開きがある（理数系の分野は高いが、歴史・思想系の分野では低い）。電子媒体資料の提供の仕方にも、全文・抄録・索引のどの範囲か、バックナンバーの全部に及ぶか、最新号は含まれるのか等千差万別である。提供機関との契約が切れると、バックファイルへもアクセスできなくなり、大学図書館として資料保存の点でデメリットがある。依然として、紙媒体資料は社会に供給されており、大学図書館に大量に所蔵されている。愛知大学のような文系大学では、これまでの紙媒体資料と新たな電子媒体資料との棲み分けを、一度総括的に検討する時期に来ているように思われる。当面は紙と電子の図書資料の混在する「ハイブリッド図書館」としてやっていくことになるだろう。

## レファレンス（現場からの具体的な事例紹介）

名古屋大学附属図書館  
佐藤美穂

東海地区大学図書館協議会「図書館職員基礎研修(第6回)」  
平成29年11月17日(金)10:10~10:50

### レファレンス (現場からの具体的な事例紹介)

名古屋大学附属図書館  
情報サービス課 調査支援係  
佐藤美穂

### 中央図書館でレファレンスを 担当する係

相互利用・参考調査カウンターを2係で交代制で担当

- 情報リテラシー係:
  - 情報リテラシー教育、学習支援
  - 講習会(広報含む)
  - Webサイト
    - 整備
    - データベースの使い方サポート
- 調査支援係:
  - ILL
  - 参考調査(対面、電話、メール)
  - 他機関への照会、紹介状

### 平成29年度レファレンス件数

来館相談件数

電話、メール、FAX相談件数

	所蔵調査	事項調査	利用指導	他	合計		所蔵調査	事項調査	利用指導	他	合計
4月	51	2	103	2	158	4月	8	0	0	0	8
5月	35	7	81	1	124	5月	9	1	4	1	15
6月	28	0	72	2	102	6月	9	1	1	2	15
7月	31	7	63	2	103	7月	6	2	0	0	7
8月	29	0	43	2	74	8月	3	0	1	2	6
9月	13	1	32	1	47	9月	6	1	0	0	9
10月	28	2	57	1	88	10月	5	1	0	0	6

### よく使うレファレンスツール

- 自館資料検索(OPAC、リポジトリ、契約データベース、電子ジャーナルアクセスサービスなど)
- CiNii Articles / Books / Dissertations
- 国立国会図書館リサーチ・ナビ / 目次データベース
- 参考図書(白書、統計、年鑑、辞書、事典)
  - 理科年表は学生の課題で案内することが多い。

### レファレンスの傾向

- 事実・事項調査 < 書誌・所蔵調査
- 相談者: 学生、教員、一般(研究目的)
  - 学生・教員: 調査の結果、ILLにつながるものが多い
  - 一般: 名大図書館の所蔵・利用について

### 学生からの相談①

- 論文や図書の参考文献リストから、資料を探している
- 他機関の訪問利用&紹介状申請
- レポート、課題、論文執筆にまつわるもの:
  - 「〇〇のデータ/論文/資料を探しています。」
    - OPAC、CiNii、その他契約の電子ジャーナル、データベース等で検索して対応。
    - 学生が自分でもできるようにプロセスも見せる。

## 学生からの相談②

- 特有の難しさ?
- 資料を集めるプロセスも授業課題であるとき
  - 探し方・プロセスも情報として伝える
- 調査テーマが漠然としているとき(主にレポート課題)
  - キーワードの整理
  - どんな研究があるか
  - 自分なりの切り口を作る、自分が扱える範囲のテーマに落とし込む必要性
- ライティングの相談はラーニングコモンズのサポートデスクへ

## 教員からの相談

- ほとんどが所蔵調査→ILL利用(海外も多い)
- ときにはこんなことも:
  - 「論文タイトルだと思って探したが見つからない」  
→掲載誌が海外にしか所蔵がなく難航。所蔵大学へのレファレンスにより、記事名ではなく写真資料名であることが判明。
  - 「以前、ネットで見つけたある細胞の画像の出典を探したい」  
→Google画像検索を使ってみる。使用サイト上での出典情報と、出典元とされるミュージアムへの問い合わせを経て、掲載図書が見つかる。  
→医療画像販売会社&撮影者にたどり着いた。(教員の協力が大きい)

## 一般の方からの相談

- 多くの場合は学術利用
- 見たい資料がすでに決まっている
- 電子ジャーナルやデータベースを利用したい
- ときにはこんなことも:
  - 「名大にならあると思って・・・」
  - 「月曜日は公共図書館がお休みだから名大に電話しました」
  - 「シンーラスノートを作りたい」

## 他機関からのお問い合わせ

- 所蔵調査、事項調査、利用についての問い合わせ
- 最近続いているのは・・・
  - 「名大の教員の論文に引用されている資料を探している」  
→写真資料、著者から直接提供された論文など。  
所蔵館が見つからず、著者所属の名大に問い合わせ。  
調べてみると、図書館にはなく、教員個人が収集した資料と思われる。

## 気を付けていること

- レファレンスインタビュー
  - 言葉通りだけでとらえない
  - 資料を必要としている背景を知る→提供方法が変わる
  - 表情、姿勢、距離感、話し方、相槌
  - 学生＝将来の研究者として
  - 時間のもらい方
- 同僚にも相談する、チームワーク
  - 発想の転換になる
  - それぞれに得意分野、経験がある
  - 情報の共有

## 課題

- 参考図書の整備
  - 現状の把握
  - 最新化
  - 不足分野の補てん
- 係全体としてのレファレンススキルの向上・維持
  - スタッフの交代や異動

## 「図書館若手職員の経験談」 図書受入・目録関係

静岡文化芸術大学図書館・情報センター

井出直樹

## 1. はじめに

先ほど、名古屋大学附属図書館長の森先生から「人前で話すことの訓練」のお話がありました。私自身、ガイダンスなど学生の前で話すことはあっても、図書館職員の方々に前に話す機会は減多にありません。そのような意味で、今回は自分にとっても研修であると考えています。どうぞよろしくお祈りします。

続く佐藤さんのレファレンスの講義では「ウチもそうなんだよなあ」と共感することが多々ありました。お話を伺っていて感じたのは、図書館業務では知識の習得と同様に、経験の蓄積が大切だということです。私も日々失敗を重ねて痛い思いをし、そこから学ぶことや覚えることが多いのですが、経験は次の機会に必ず活かせるものです。

さて、本日は様々な業務を担当されている方が参加されていますので、ここでは図書の受入・目録の業務をベースに、これまでの図書館勤務経験で感じたことなど、どなたにもご理解頂けるような内容でお話しします。また、これからご紹介するのは当センターに於ける事例で、他館では事情の違うことも多々あると思います。「こういうやり方もあるんだな」と考えて頂ければよいと思います。

## 2. 所属大学の紹介

私は、静岡県浜松市にある静岡文化芸術大学の図書館・情報センターに勤務して10年になります。当センターの蔵書は約23万冊、受入図書は年に6千冊弱、所蔵雑誌は約1,500タイトルです。館内には100台を超える学生用PCを設置し、図書と情報ネットワークの両方を活用できる学習環境が整備されています。大学は文化政策学

部とデザイン学部の2学部、文化政策研究科とデザイン研究科の2研究科で、学生数は1,450名ほどです。学生1人あたり年間貸出冊数は約20冊、入館学生数は年に約10万人で、先生方の協力もあり、学生の図書館利用はとても活発です。

## 3. 図書受入の流れ

当センターで受け入れる図書は、①教員選定、②図書館選定、③寄贈、④研究費で購入した図書の4グループに分類することができます。

本学に於いて、図書・雑誌・電子資料を併せた資料予算は約3千万円で、これを①②で配分しています。①の教員選定を本学では「選定委託」と呼び、学生の学習・調査研究に必要な資料を教員が選定しています。②の図書館選定には、当センターで選定する図書のほか、学生購入希望（リクエスト）で購入する図書も含まれます。③の寄贈は、昨年度実績では350冊ほどで、美術館から展覧会図録を頂くこともあります。④の教員研究費や科研費で購入した図書は、昨年度実績で1,800冊ほどでした。昨年度は①～④で5,500冊ほどを受け入れました。

学生購入希望は、昨年度実績で276冊を受け入れました。最近は学生が書店に出向いて選書する「選書ツアー」を実施する図書館が増えています。図書館イベントとして広報するのに効果的だと思いますが、参加する学生が限られることや、対象資料が店頭在庫品に限られ洋書や古書を選べないことなどから、当センターでは学生購入希望で対応するようにしています。

具体的な受入作業の流れですが、登録などはすべてシステムで管理しており、当センターでは株式会社リコー製のLimedioを使用しています。ま

ず、図書館システムに発注登録して仮書誌を作成し、図書が納品されたら請求記号や受入金額などを登録します。備品管理番号に当たるバーコードラベルを貼付して受入処理したあと、目録作業で本書誌を作成し、所蔵登録をします。続いて、押印やタトルテープ貼付、ブッカー装着などの装備をし、システムで利用開始処理をして書架に配架しています。

受入や目録作業の際、国立情報学研究所（NII）が提供する総合目録データベースに記載されている分類や件名にはとらわれず、本学での登録実績等を踏まえ、改めて検討してから登録しています。

#### 4. 目録作業の流れ

目録作業については、入力基準（目録情報の基準、目録システムコーディングマニュアル）や操作マニュアル（目録システム利用マニュアル）、『日本目録規則』など、さまざまなツールが提供されていますので、それらの基準に従って作業を進めていきます。目録について詳細に説明するには時間が足りませんので、ここでは概要をご説明します。

大まかな作業の流れは、まずNIIの目録システム（NACSIS-CAT）にアクセスして、受け入れた図書の書誌データをISBNコード等から検索します。内容を確認したうえで適合すれば、総合目録データベースから書誌データをダウンロードして所蔵情報を登録する、というものです。書誌データが未作成の場合は、書誌を作成します。この場合、類似のレコードがあれば流用入力し、無い場合は新規に入力します。また、必要に応じて書誌を修正します。

本学の場合、外国語資料の受入が多くあり、あまり見慣れない言語や、参照ファイルにも書誌データが見当たらない場合は、登録作業に苦労しています。また、書誌の統合など、操作を誤ると消してはいけない書誌データを削除しかねず、気を使うこともあります。多巻ものの巻冊次情報追加（出版物理単位の追加）など、作業によっては複雑な手順に戸惑うこともありますが、ある程

度はシステム操作の慣れでカバーできます。

#### 5. 所蔵登録する資料かの判断

本学では所蔵登録した資料は備品として扱われ、大学の資産となります。登録しない資料は備品とはならず扱いが異なるので、この判断基準を明確にしておく必要があります。

これについて、昭和47年11月14日文部省通知雑管第115号「図書の会計処理について（報告）について（通知）」で図書の会計処理基準が示されています。ここでは「長期間にわたって保存、使用することが予定される図書は、取得価額の多寡にかかわらず固定資産に属する図書として取扱う」としています。また、本学は公立大学法人ですので、地方独立行政法人に関する基準にも倣います。地方独立行政法人会計基準及び地方独立行政法人会計基準注解の「図書の評価方法について」では、「図書（印刷その他の方法により複製した文書若しくは図面又は電子的方法、磁気的方法その他の人の知覚によっては認識できない方法により文字、映像又は音を記録した物品としての管理が可能なもの）については、雑誌やパンフレット等、業務上一時的な意義しか有さないものを除き、有形固定資産として取得価額をもって貸借対照表価額とする」と規定しています。

これらの基準に従い、当センターでは図書を備品登録の対象とし、新聞・雑誌は登録対象外としています。判断に迷う場合は、当センターに於けるこれまでの取扱に倣い、前例がない場合は、類似資料の取扱や他館の登録実績等を参考に判断しています。

なお、映像著作物については著作権法で別の規定があるのでこれに倣うほか、個々の資料に記載された取扱基準に従って判断しています。

#### 6. 的確な情報（登録）が必要な理由

このように、正しく情報を登録するのは、利用者のため（資料に関する正確な情報の提供）であるとともに、備品管理・予算執行管理のため（決算時の照合、購入の根拠を記録）でもあります。

## 7. これまでの業務経験から得たヒント

まず、利用者への接し方です。対応の際は学生が話しやすい環境づくりに努めるとよいと思います。私は声のトーンを柔らかく、話すスピードを遅くし、学生の話を遮らないように心掛けています。次に、学生の図書館利用を促進するには、先生方の協力が必要不可欠です。図書館を応援してくれる先生を見付け、ネットワークを拡げていくとよいと思います。忘れられがちですが、事務局との連携も勿論必要です。

また、業務を進めていくといろいろと迷うことが出てきます。困ったときに相談できる相手を内外に持つとよいと思います。今日は多くの方が参加されていますので、相談できる方をぜひ見付けてください。

それから、図書館は1人で運営しているのではないので、チームプレイの意識を持つことがとても大切です。スタッフ間での情報共有を怠ると、図書館業務に於ける様々なトラブルの要因となります。いわゆる「報・連・相」が重要で、コンプライアンスの観点からもスタンドプレーは禁物です。

最後に、皆さんどうか図書館で当てにされる存在となってください。そして、図書館が学生から信頼され、頼れる場所と思ってもらえるよう頑張ってください。私からは以上です。本日は有難うございました。

## 図書館若手職員の経験談 WEB サービス関係

名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館

東 槇 典 子

図書館職員基礎研修(第6回)

(図書館若手職員の経験談:WEBサービス関係)  
**リポジトリ業務を中心に。**

図書館職員基礎研修(第6回)  
2017.11.17

名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館  
東 槇 典 子

図書館職員基礎研修(第6回) 2

**名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館**

【奉仕対象】

- ・名古屋外国語大学 3学部10学科 1研究科 約4,700名
- ・名古屋学芸大学 3学部5学科 3研究科 約3,000名

【図書館職員】

- ・専任職員 4名
- ・契約職員 1名
- ・委託スタッフ 7名

図書館職員基礎研修(第6回) 3

**現在の主な担当業務**

【学術情報基盤整備】  
図書館ウェブサイト / リポジトリ / DB  
図書館システム / 図書館内検索端末 等

【図書館広報】  
学内誌 / 企画広報 / 掲示 等

【その他】  
学科窓口(3学科 1研究科)

図書館職員基礎研修(第6回) 4

**リポジトリ「竹の庫」**

【竹の庫】

- ・日進市岩崎町 竹ノ山(大学所在地)の貯蔵庫(リポジトリ)。
- ・公開:2013年3月
- ・システム: JAIRO Cloud

図書館職員基礎研修(第6回) 5

**困ったこと・難しいこと**

- ・自館のマニュアルを作っていないかった
  - 登録のルールが曖昧
  - 前に登録したものを確認する
  - 効率が悪い
  - 引継ぎができない

JOコンテンツ登録マニュアルを自館用に流用して作成。  
※自分のためにも、次の担当者のためにもマニュアルは作っておこう。

- ・機能の把握ができていない(現状)
  - どの機能を採用するが正解?
  - バージョンアップ後の新機能の採用のタイミングは?

図書館職員基礎研修(第6回) 6

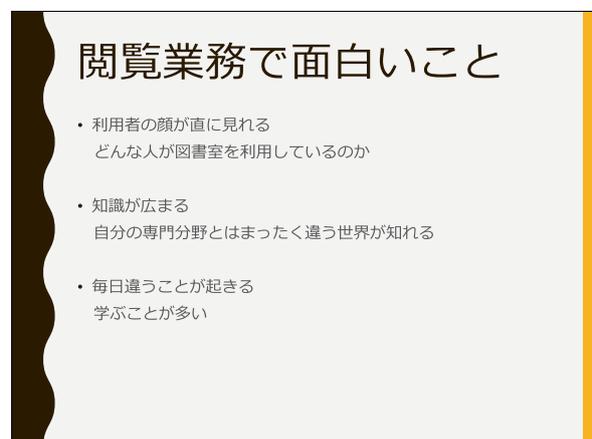
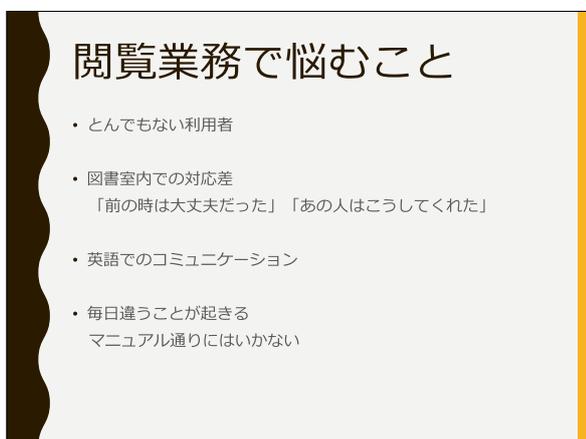
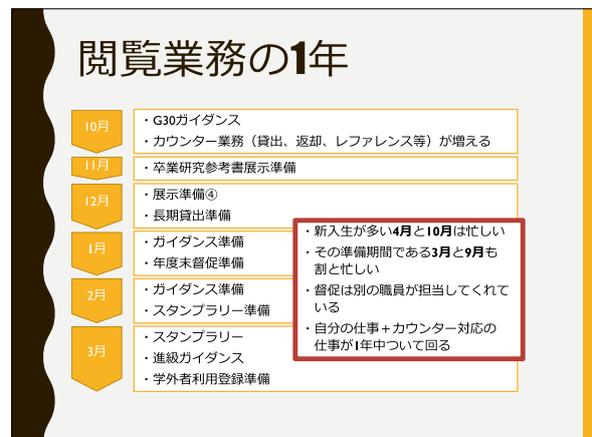
(リポジトリ業務に関わらず)  
**気を付けていること**

- ・独りよがりの判断をしない
  - 他大学の事例をみる
  - 他大学の担当者に聞く
    - 研修会、研究会等と同じ業務担当者と交流を。
  - 上司や同僚に相談する
- ・イレギュラーなものが来たときの対応
  - その場限りの対応にならないように考える
  - なるべく「例外」にならないように考える
    - 「例外」が増えるとマニュアルが機能しない。

## 図書館若手職員の経験談 閲覧関係

名古屋大学理学図書室

鰐部美香



## 閲覧業務で すこし 気にしてほしいこと

- 図書室内での対応は（できるだけ）一律に  
間違った情報を一度流すと訂正するのがとても大変  
「報告、連絡、相談」が大事
- 相手は「人」  
マニュアルがうまくいく相手ばかりではない
- 色々な利用者がいる、これからも多様性は増えていく  
Borrow、Return、Renewの3単語

## おわりに

- 閲覧業務はとにもかくにも自分の思う通りには  
いかない
- 図書室内での基礎的な対応（＝一律の対応）とともに、  
臨機応変な対応が肝心となる
- マニュアルは必要だが、そのマニュアルは随時更新することが  
大切

**「これからの図書館員に期待するもの」**

図書館コミュニケーションデザイナー 押樋良樹 (おおといりょうき)

大学図書館は、公共図書館利用者へ導く最後の責務を負っている。  
図書館員は見られていることの認識を！専門家としての立ち居振る舞い、行動を！魅せる接遇環境の整備を！魅力ある図書館の核は図書館員の存在であると、さらなる自覚を！様々な図書館の機能の魅力をどのように伝えているのか。読書の持つ力を原点に、蔵書構成の魅力と図書館が持つ資料情報の力を発信！司書は学際の導師、各学科・カリキュラム・教授との連携コーナーづくりと広報を。利用案内書を利用制限に止めない。利用者に公正公平な判断力の養成機会を！大学図書館はもっと社会の風を！もっと時事性訴求のための企画展示を！図書館員は誇らしい知的専門家！日本の図書館員の社会的地位向上のためにも図書館員の力を発信しましょう。

自己紹介： 1945年千葉県市川市生まれ、武蔵野美術大学芸能（現空間）デザイン科  
主な職歴： レマーン：広告クリエイティブディレクター 20年間  
アイデックス：CIデザインコンサルタント 10年間  
乃村工藝社：ブランディングディレクター、現在広報部 20年間  
図書館との絆： 児童書専門店「童話屋」、イトーヨーカドー「子ども図書館」企画設計以来  
日本図書館協会児童図書館員養成講座講師をはじめ各地で講演、講座。  
千葉県浦安市図書館協議会委員長、市川図書館友の会初代会長、  
図書館コミュニケーションデザイン勉強会専任講師 2017/12 現在

## 「朝刊の記事から POP を作り、2 時間以内に資料を展示 —安城市図書館「日めくり展示」にチャレンジ」を実施して

愛知県立大学長久手キャンパス図書館 図書情報課長

松 森 隆一郎

### 1. はじめに

平成 29 年 6 月 1 日にオープンした愛知県安城市図書館「アンフォーレ」は、「日めくり展示」という展示を行っています。

これは開館日毎日、朝刊から記事の一つを選び、POP を作って関連資料を紹介するというものです。

毎回、開館後 2 時間以内に展示するそうです。

安城市図書館の公式ツイッター

“あんず (安城市図書館)”

[https://twitter.com/anjo\\_library](https://twitter.com/anjo_library)

でその内容を見ることができます。

今回の演習は、この展示に関わった、図書館コミュニケーションデザイナー押樋良樹さんにお越しいただき、実際にこの作業を行って、出来上がった POP の講評をしてもらおうというものでした。

まずは、講師を勤めました図書館コミュニケーションデザイナー、押樋良樹さんの書かれた「新聞から POP ポスターを作る」をお読みください。

東海地区大学図書館協議会 第六回「図書館職員基礎研修」2017/11/17

### 「新聞から POP ポスターを作る」

図書館コミュニケーションデザイナー  
押樋良樹 (おおといりょうき)

前段\*で、大学図書館はもっと社会の風を！  
もっと時事性訴求のための企画展示を！と述べ

した。その実践演習の表現の一つが今日取り組む POP ポスターの制作です。前日の新聞、または今朝の朝刊から時事ネタを取り上げ、常に時代の風を吹き込む大学図書館であることをも訴求する POP ポスターです。手描きでも PC を活用してもどちらでも良いでしょう。主役は合わせて展示する関連する本・資料ですから表現するカラーは、モノクロの方が良い時が多いでしょう。

絵が苦手であっても大丈夫です。訴求のポイントは言葉・文言である場合が多いです。文字だけのポスターでも充分役を果たせます。

広告のコピー年鑑などでコピーライティングの技を磨きましょう。

\* 演習の前に行われた講演、演題は「これからの図書館員に期待するもの」

### 2. 演習手順

上記の意図と趣旨で演習を開催しました。演習の手順は以下のとおりです。

＜事前課題内容＞

予め安城市図書館“あんずさんのツイッター” ([https://twitter.com/anjo\\_library](https://twitter.com/anjo_library)) を閲覧して、そこに出てくる POP を参考に受講日前日の中日新聞朝刊 (東京新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井でも可) から記事を選んで、安城市図書館「日めくり展示」と同様のサイズ (A4、縦) の POP を作成する。

また、POP に合わせて展示する資料を自館の蔵書から 1 冊選んでタイトルを控えておく。

なお、演習当日はその POP について各自 1 分で発表する。

注) 安城市図書館では2時間以内で上記の作業をしているので、上記の作業であまり時間をかけないようにすること。

#### < POP 作成要領 >

A 4 白紙を縦に使う、カラーでもモノクロでも、手書きでも PC での作成でも可とする。左下に新聞名、何版か何面かを記入。右下に図書館名と氏名を小さい文字で記入する。

作製した POP とそのコピー、該当の新聞記事の切り抜きを研修当日に持参すること。

なお、POP に合わせて展示する資料(図書)は持参しなくてよい。資料名を口頭で発表するだけで内容紹介まではしない。

### 3. 内容

#### 3-1 概要

受講者 40 名が前日までに POP を作成し、当日 POP の説明を行い、講師が全作品を講評するという大掛かりな演習です。

説明 1 分、講評 2 分、合計 3 分を 40 人行い、合計 120 分というきつめのスケジュールでしたが、予想通り時間オーバーとなってしまいました。

40 名全員の作品を作成者とのインタビューの中で、時にはやさしく時には厳しく鋭い突っ込みを入れる講師に、たじろぐ人や一生懸命意図を伝える人など様々な対応が見られる中、的確なアドバイスを納得(一部不満げな人もおられました)する本人と聴衆という構図が見られました。

演習の前の時間が、同じ押樋講師による「これからの図書館員に期待するもの」というタイトルの 40 分間の講演でした。

この講演が辛口の講演で、図書館に対する厳しい指摘が続出し、受講者の研修後アンケートでも、「厳しい指摘だったが刺激を受けた」、「身の引き締まる思いがした」、「辛口だが図書館へのあふれる愛を感じた」等の回答が出ていました。

それを受けての演習です。大勢の人を前にしての発表、しかも講師は厳しそうということで発表

者はかなり緊張したことと思います。

#### 3-2 POP

同じ新聞を見ても人の興味は様々です。40 名の受講者は 24 の記事を選び POP を作りました。(別表 1)

複数の人が取り上げた記事は 11 記事、一番取り上げられた記事は「CO2 削減マツダの新エンジン」で 4 名の人を取り上げました。

全員愛知県内の大学にお勤めの方、さすが自動車王国愛知県です。

一方静岡県内の大学から参加した方は、5 名中 3 名がサクラエビの記事を取り上げました。郷土愛の強い人が多いようです。

各自、その記事を選んだ理由を話します。

「地域のことを知ってもらうため」、「この地域に関わる問題だから」という地域を意識して記事を選んだ人。

「関係する学部や学科を持っているから」という学部・学科重視で選んだ人。

「今話題になっているから」、「記事を読んでおもしろそうだったから」と講師が講義でも話した「時事性訴求」を意識した人。及びこれら上記の理由を重ね合わせてその記事を選んだという人が多かったです。

その他、「この本が紹介したかった」、「こういう類の本もあるということを知ってもらいたい」という蔵書の紹介に重きを置いた人。「学生の将来を考えて」、「こういう本の読み方もあるということを知らせたかった」、「スマホを見ながら通学してくる学生を何とかしたい」等々皆さんなるほど!と思わせる理由で記事を選んでおられました。

#### 3-3 講評

##### 3-3-1 全体

一方、それらの理由で選んだ記事と紹介する本を結び付ける POP を前に、押樋講師は作成者にいろいろな問いかけを行い、様々なアドバイスを与えました。

40 人全員に、本当にありとあらゆる方向から

多様な質問を浴びせ、しゃべらせ、意図をくみ取りアドバイスを与えておられました。

### 3-3-2 構想部分

前段に書かれているように、「時事性訴求のための企画展示を」、「手描きでも PC を使ってもよい」、「主役は展示する関連する本や資料なので、必ずしもカラーでなくてもいい、モノクロの方が良い時が多い」、「絵が苦手でも大丈夫。訴求のポイントは言葉・文言である場合が多い。文字だけのポスターでも充分役を果たせる」、「広告のコピー年鑑などでコピーライティングの技を磨くといい」等々の講評がなされましたが、他にも、取り掛かりにあたって、「言いたいことを伝えるべき、意図を文字にして書いておきましょう」、「記事を読んで思った“なぜ?”をもっと掘り下げて POP や紹介本に繋げるべき」、「その学部・学科ならではの切口を」、「対象者は誰なのか?をイメージしてください」等の発言がありました。

### 3-3-2 技術的な講評

POP の技術的な講評としては、「文字の大きさ・書体を意識してください」、「“国内最古”とか“世界初”等の言葉は POP に載せましょう」、「キャラクターを登場させ、引き回しに使うのはいい方法です」等の発言がありました。

### 3-3-3 展示としての講評

展示としての講評としては、「テーマはあまり広げない方がいい」、「企画展示につながるヒントとしても考えておいてもらいたい」、「関連するパンフレット等を用意しておいて一緒に展示すると良いでしょう」等の発言がありました。

## 4. 感想

### 4-1 受講者の感想

研修後のアンケートには、「自分の POP をプロの視点で評価してもらえてよかった」、「作り方のポイント、見せ方を教えてもらえて勉強になった」、「同じ記事でもいろいろな切り口があって興味深かった」、「他の人の作品も見られて勉強に

なった」、「POP に各大学の特徴が出ていて興味深かった」、「同じ記事からでも全く違う趣の POP が出来、紹介される本も違いおもしろかった」、「様々な視点から POP が見られて参考になった」、「対象者と目的を捉えてコメントされていたと感じた」、「気が付かなかった視点から意見をいただけて勉強になった、論理的に考える癖を付けます」等々の回答が寄せられ、各自、講評を受けて思うところがあったのではないかと推察します。

この演習は、専門家に見てもらい自分のスキルを磨くだけでなく、他人の作品も見て講評も聞くことにより新たな発見を感じてもらおうという意図がありましたが、その想いは感じ取ってもらえたようです。

## 4-2 私の感想

### 4-2-1 講師に対して

私は、講師のコミュニケーションデザイナーという肩書がピンと来ていませんでした。コミュニケーションとデザインが結び付かなかったのです。

研修終了後のメールのやり取りの中に、「現状社会は、図書館の皆さんに限りませんが、デザインという行為をきわめて狭義でとらえておられます。そして、デザインされた映像や言葉をどのように伝えるべきか…コミュニケーションすべきかが重要です」という一文があり、ハッとさせられました。

出来上がった作品だけがデザインではないのだ、完成するまでの過程もデザインなのだ。

そしてその過程の多くをコミュニケーションが占めるのだと。

72 歳の講師が 2 時間以上の時間をかけて、立ちっぱなしで 40 人一人ひとりの作品に、「なぜこの記事を選んだのか?」「なぜこのような POP にしたのか?」「なぜこの本を紹介するのか?」を問い続けました。

あれはインタビューという形を取ったコミュニケーションなのでしょう。

講師は人によってやさしかったり厳しかった

り、簡単な事を聞いたり難しいことを聞いたり、思いもよらぬ方面から切り込んできたり、変なこと聞いたり変幻自在でした。

それでいてしっかり POP の描き方の技術を、プロとしてのテクニックや考え方を教えてくれました。更に私達にコミュニケーションの取り方を教えてくれていたのかもしれない。

#### 4-2-2 受講生に対して

受講者にもびっくりさせられました。経験の浅い人たちのはずですがしっかり発表していましたし、講師との受け答えもきちんとしていました。

講師は案外決めつけで話をする場面もあり、対応に窮するのではないかと思われましたが、皆さん上手に対応されておりました。カウンターでのやり取りや、利用者へのガイダンスで慣れているのでしょうか？

商品の販売の方が向いているのではないかと思われる流暢なしゃべりの方もいらっしゃいました。発表の方法も人それぞれで、POP 同様いろいろな切り口を見せていただき参考になりました。

受講者だけでなく、企画した研修委員も大変勉強になった研修でした。

ありがとうございました。

講評を受けて作り直した POP の一部を、最初の POP と並べて掲載します。POP 版「大改造!! 劇的ビフォーアフター」です。

こちらも合わせてご覧ください。

## 採用記事及び紹介本一覧

(別表1)

	採用記事	大学	紹介本
1	CO2削減マツダの新エンジン	愛知学院大学	『自動車新世紀・勝者の条件―「石油」から「電気」への大転換』
		愛知工業大学	『「地球温暖化」ってなに?―科学と政治の舞台裏』
		名古屋大学	『Negotiating the sustainable development goals : a transformational agenda for an insecure world』
		名城大学	『エンジン用材料の科学と技術』
2	シカ対策	岐阜大学	『視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録』
		名古屋大学	『絵とき「超音波技術」基礎のきそ』
		名古屋大学	『人間動物関係論―多様な生命が共生する社会へ』
3	サクラエビ	静岡大学	『しずおか港町の海ごはん』
		静岡大学	『旬の魚はなぜうまい』
		東海大学	『駿河湾桜えび物語―駿河湾の名物120年の歴史を紐解く』
4	ライオン氷漬け	愛知県立大学	『絶滅哺乳類図鑑』
		大同大学	『深読み! 絵本「せいめいのれきし」』
		名古屋大学	『南極大図鑑』
5	恐竜の歯の化石	豊橋技術科学大学	『図解 恐竜はどんな生物だったか その素顔と生活をさぐる』
		名城大学	『恐竜ファイル―先史時代の地球を闊歩した恐竜たちの驚くべき生態120種』
		名城大学	『ニッポンの恐竜』
6	マイナンバーカード	愛知産業大学	『大丈夫か? マイナンバー 使いこなせばこれだけ便利、こんなに変わる!』
		名古屋大学	『番号利用法 マイナンバー制度の実務』
7	北斎巨大だるま	中部大学	『初摺 北斎漫画』
		名古屋大学	『北斎漫画』
8	チンパンジーのしぐさ	名古屋学院大学	『しぐさの技術 伝わり方が劇的に変わる!』
		南山大学	『あなたのなかのサル 霊長類学者が明かす「人間らしさ」の起源』
9	アルプスの氷河半減	名古屋大学	『不都合な真実―一切迫る地球温暖化、そして私たちにできること』
		人間環境大学	『スイスアルプス旅事典』
10	秋の紅葉	名古屋大学	『47都道府県・こなもの食文化百科』
		日本福祉大学	『デジタルカメラを楽しむ写真撮影テクニック』
11*	名古屋城エレベーターなしユニバーサルデザイン	名古屋市立大学	『利用者本位の建築デザイン 事例でわかる住宅・地域施設・病院・学校』
12	名古屋城エレベーターなし	名古屋市立大学	『観光のユニバーサルデザイン 歴史都市と世界遺産のバリアフリー』
13	地下街60周年	愛知学院大学	『毎日乗っている地下鉄の謎』
14	LGBT	愛知県立大学	『にじ色の本棚―LGBTブックガイド』
15	郷土芸術	愛知淑徳大学	『民俗芸能探訪ガイドブック』
16	伊勢神宮遷宮	皇學館大学	『伊勢神宮 式年遷宮と125社をめぐる旅』
17	長巻き寿司	静岡県立大学	『はじめてでもおいしく作れる和食―永久保存レシピ』
18	シャガール	常葉大学	『もっと知りたいシャガール―生涯と作品』
19	イノシシ退治	富山大学	『イノシシと人間―共に生きる』
20	井村屋東証一部へ	名古屋女子大学	『会社四季報』
21	LEGOランドクリスマスツリー	名古屋市立大学	『レゴブロックの世界』
22	看板の文言	名古屋大学	『広告心理』
23	障害を持ったピアニスト	名古屋大学	『障害のある人のスポーツを知ろう』
24	男性トイレ	南山大学	『変わる学校のトイレ―子どもの思いを形にする』

\* 11 は名古屋城エレベーターなしとユニバーサルデザインの2つの記事を採用

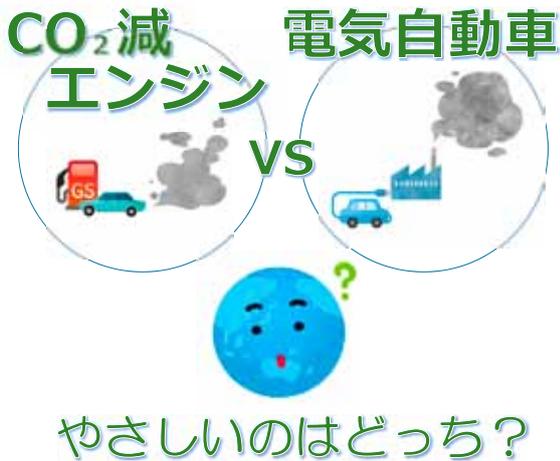
(前)

(後)



## けさの新聞から

2017.11.16

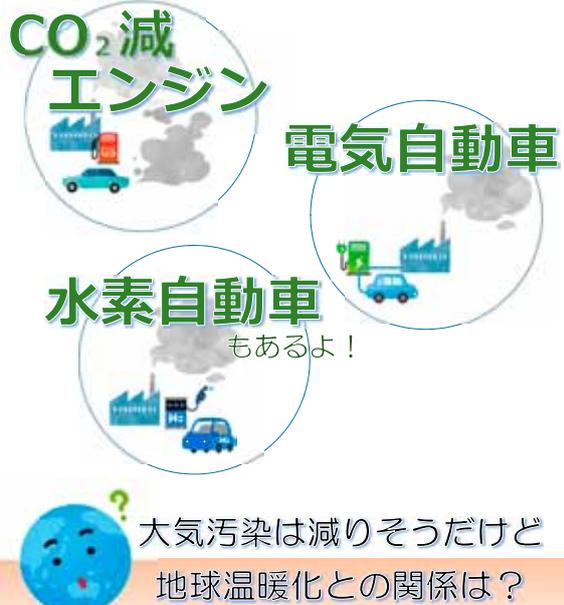


中日新聞 朝刊  
12版6面

愛知工業大学附属図書館  
出川 可奈

## けさの新聞から

2017.11.16



中日新聞 朝刊  
12版6面

愛知工業大学附属図書館  
出川 可奈

(前)

(後)

地球創世記  
への誘い

中日新聞社

京都府立総合科学技術センター

アジア最古級よろい竜の  
歯の化石発見!

古代生物の  
生態を探ろう

中日新聞11版27面

豊橋技術科学大学附属図書館 小池京子

サル  
と  
ヒト

『中日新聞』12版  
27面 (後)

サルか  
ヒトか

あなたは  
どっち!?

南山大学図書館 関本みわこ

(前)

(後)

衝突事故 8 割減！

電車とシカ  
共存のカギは **超音波**



もっと知りたいあなたへ  
【雑誌論文】 匹田 雄史, "優秀賞 汎用技術を活用した新しい仕組みの獣害対策について (第30回テクニカルフォーラム)". 鉄道と電気技術 = Railway & electrical engineering, 28(6), p.32-36, 2017-06

中日新聞12版7面

名古屋大学附属図書館 林梨恵子

衝突事故 8 割減！

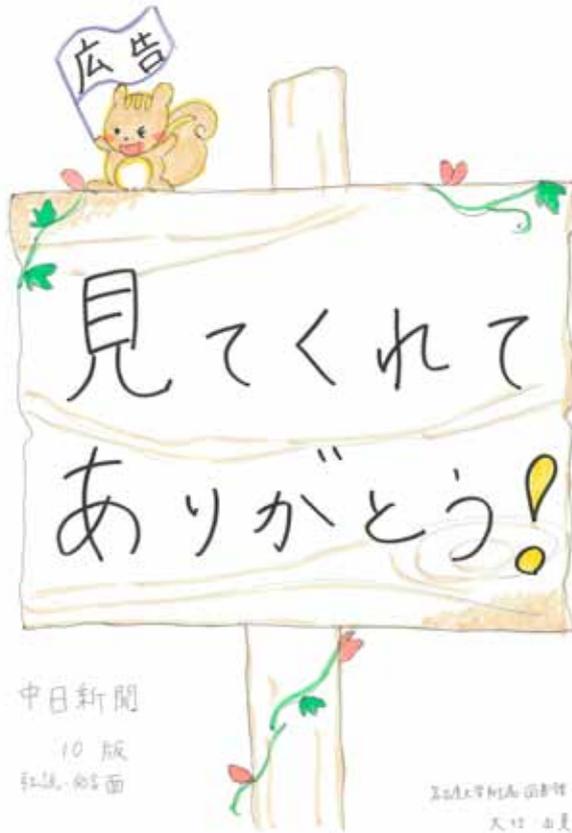
電車とシカ  
共存のカギは **超音波**



もっと知りたいあなたへ  
【雑誌論文】 匹田 雄史, "優秀賞 汎用技術を活用した新しい仕組みの獣害対策について (第30回テクニカルフォーラム)". 鉄道と電気技術 = Railway & electrical engineering, 28(6), p.32-36, 2017-06

中日新聞12版7面

名古屋大学附属図書館 林梨恵子



中日新聞  
10版  
社説・68面

名古屋大学附属図書館  
大竹 由夏



名古屋大学附属図書館  
大竹 由夏

中日新聞  
10版  
社説・68面

(前)

(後)

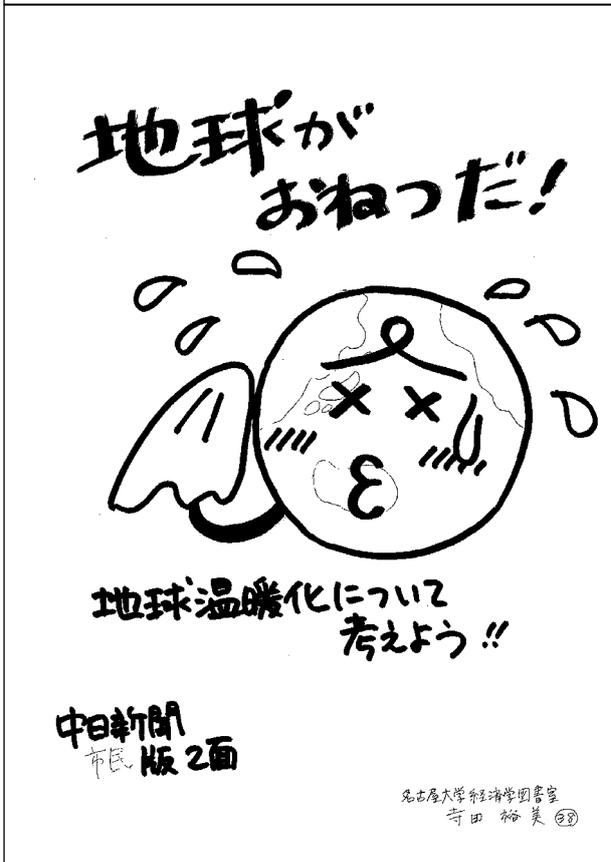


もみじの季節、  
「粉もの」を見つけました。



中日新聞 12版1面

名古屋大学附属図書館  
情報サービス課図書係 萩 友里子





## 新たな学習交流拠点を目指して

## ー 神田外語大学附属図書館の活性化、そしてこれからの取り組み ー

神田外語大学附属図書館 課長

吉野 知義

## はじめに

本日は、東海地区大学図書館協議会というとても大規模な、そしてとても歴史のある協議会にお招きいただきまして、本当にありがとうございます。「新たな学習交流拠点を目指して」ということで事務局からテーマをいただきました。実は、2016年に私学経営研究会の『私学経営』という雑誌に同じタイトルの記事を掲載していただきました。これが元になっておりますが、それから約2年経過しておりますので、その記事の内容プラス2年分、そしてこの先ということをお話しできればと思っております。

## 神田外語大学について

私の勤めております、神田外語大学は、JRの東京駅の隣駅、神田駅の近くにある神田外語学院という英語の専門学校を母体として1987年に千葉県幕張に開設した4年制大学です。

学部は外国語学部1学部のみで、1学年約1,000人、全学生約4,000人という規模です。学科は、英米語学科という英語を中心の学科が半分ぐらいで、その他に国際コミュニケーション学科、アジア言語学科で中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、それから、イペロアメリカ言語学科でスペイン語とブラジル・ポルトガル語専攻という構成になっております。男女比では女子学生が多くて、7割ぐらいが女性という感じですが。

## 神田外語大学附属図書館について

その中にある図書館ですが、このガラス張りの凝ったデザインの建物が図書館です。図書館の利用状況で言うと、蔵書冊数は大体18万冊で、貸出

冊数が年間2万冊程度、昨年度の入館者数は12万5,000人となっております。このぐらいの規模の大学だということをご理解いただきたいと思います。



このスライドの右上にもずっと出していますが、先ほどご覧いただいた図書館の建物をモチーフにしたピクトグラムを自作して、昨年の図書館総合展ではこのピクトグラムを中心に、図書館内のサイン計画の話とか業務改善の話などをポスターセッションで出しておりました。その後、今年の2月の図書館雑誌にも、そのピクトグラム、サイン計画の話に掲載していただいております。こちらの関係でも今年はいくつか講演などをさせていただいているので、そちら方面でご存知の方がいらしたらうれしいです。このようなことも今日ご紹介する取り組みのひとつになるのかもしれませんが。

## 自己紹介

自己紹介もさせていただきたいと思います。図書館情報大学を卒業して、丸善株式会社(現丸善雄松堂株式会社)に入社しました。その後、武蔵工業大学(現東京都市大学)という東京の理工系の大学で図書館の仕事をしておりました。ここで新図書館の建設計画とか建築に関わって、データ

ベースの導入や電車ジャーナル化を進めてきました。その後、丸善株式会社に再入社して、リンクリゾルバなど電子系商品の販促や電子書籍の企画開発に携わりました。

その後、2012年に今の神田外語大学に転職しまして、最初は図書館の課長だけだったのですが、その後、学長室の情報戦略担当課長とかIR推進室も兼務させられるようになりまして、今年の4月からそれも変わって、教務部の次長と図書館の課長とIR推進室という3つ掛け持ちの形でやらせていただいております。

### 当館の取り組みの背景について

この研究集会のテーマは、先ほど館長先生からお話がありましたように「新たな知を創出する大学図書館の取り組み」です。今回の研究集会には、従来の大学図書館の枠をはみ出した活動をされているとお呼びいただいたわけですが、これをもらったときから結構きつくて、大学図書館の枠をはみ出した活動というのは何なんだと。「はみ出した」なんです。はみ出し者、アウトローなんですよ。そんな話をしているのかということと、実際にやっているわれわれに、それがはみ出していたのかどうかという認識がまずないというところで、では何を話せばいいのかというのが困りどころでした。

今日は、5つぐらいの取り組みをご紹介します。先ほどご紹介したように、2012年に転職してきましたので、その2012年から私がやってきたことになるのですが、転職のとき、さまざまな場面でとにかく「活性化」ということをずっと言われまして、図書館を活性化してほしい流れになっていたんですね。「活性化と言われても、別に活性化してきた実績はないし」と思いながら、職に就いたわけです。

さて、勤めてみると、先ほどもご紹介したような奇抜なガラス張りの建物の1階部分が図書館です。今で言う、とてもインスタ映えのする建物で、左下にあるように、夜景もとてもきれいな建物になっています。これが7号館という建物で、1階が図書館、2階が英語以外の言語を学習する多言

語学習センター、3階にカフェという構造になっています。中身はこのような感じですよ。珍しいことに無垢の木材のフローリングが全面使われていて、カラフルな椅子、仕切りのない、一面見渡す限りのフロアで、片面ガラスですので非常に明るい開放的な図書館です。



このように見栄えがいいので、学生が来るだろうと勝手に思っていたわけです。これはみんな思うよね、と。そこで、活性化といえば入館者数を増やさなければということで、過去の入館者数をチェックしてみました。

すると、徐々に減ってきて、2008年で底を打っているわけです。2008年に今の7号館の新図書館ができましたということで、2009年からは持ち直します。ただ、2010年までの2年間で新図書館ブームはあっさりと去ったようで、2011年には元通りの12万人台に戻っています。こういう数字をもし当時面接していた経営側が知っていたとすれば、それは活性化してほしいと言いますよね。私はこの数字を後で知りましたが、「ああ、そういうことなのね」ということで、まずは入館者数を増やすことをいくつかやってみようということから始めてみました。



### 活性化に向けたポリシーづくり

そうは言っても、何をやったらいいのかというのは、皆さんもお悩みのことと思います。私の想像では、どこの図書館でも入館者数とか貸出冊数は微減というか、激減というか、決して驚くほど伸びるような感じではないと思います。そうではなくて、いや年々右肩上がりですということだったらすみません。後でご質問のときにご意見をいただきたいと思います。

では何をすればいいのか。そのときに、最初におち当たるのが職員のことでした。そんなにいろいろやっていて何人の職員さんがいるのですかとよくご質問いただくのですが、2012年に入ったときは、私が課長で、その下に専任職員が3人いました。1人は図書担当で1年前に学内異動してきた初心者、雑誌担当が10年間あの図書館にずっといる人、それから、兼任の職員がもう1人、1年前に異動してきたのですが、出版局を兼任していたので、事実上、図書館の仕事はできていないということなので、私の以下2名、あとはパートの非常勤職員数名という状況でした。

この人たちに活性化しろと言ってもなかなか難しいので、あまりミッションとかデューティを与え過ぎると仕事が嫌になってしまうかもしれません。新しい人は「図書館ってそんなところだと思っていませんでした」とくるかもしれないし、10年やっている人は、「そんなこと、前はやっていませんでした」と言うかもしれません。その辺を何とかしておかないと長続きはしないだろうなということで、部署目標というものに入れ込んでみました。これは大学内でそれぞれの部署が設定する部署目標ですが、そのときに3つ決めまし

た。

1つ目は、図書館活性化のために、主たるユーザーである学生に図書館に親しんでもらい、活発に利用してもらえるようにする。キーワードとしては、図書館は難しいところではないよという言い方をしています。これが学生向けですが、利用者のうちには当然先生方もいますので、先生に向けては、教育面から促進するために教員との連携を進めるということで、図書館は結構使えるところですよというのをアピールしていきましようということをやりました。3つ目がスタッフに向けて、これらを達成するために図書館業務の改善と図書館職員の意識向上を図りますということです。実は、さっき言ったように、嫌々だったり「えーっ」と言って働いていると、その雰囲気を利用者に伝わります。皆さんもご経験があると思いますが、働いているスタッフの雰囲気が悪いお店とか二度と行きたくないところがありますよね。あれを避けたかったので、どうせやるならわれわれ自身が楽しんで、自分たちが活性化しましょうということを言い続けてきました。この部署目標は、2013年から15年まで同じものを使ってきました。

これはオフィシャルな部署目標ですが、現場の運用ポリシーとしてはこのようなことを言っています。利用者の快適性を優先すること。それから、いろいろな掲示、注意書き、指示というところで、ノーと言わないということ。最後に、職員の負担はできるだけ軽減しましょうと。いろいろなことをやると、効果は上がるかもしれないですが、職員が大変になってしまうとまたさっきの位置に戻りますので、楽にやること、効率的にやること、そして楽しんでやることをいつも心掛けましようというふうにしているのが、運用ポリシーです。

この2つ、オフィシャルな方と現場レベルのものを掲げてスタートしたのが始まりです。幸い、当時の職員にも理解されて一緒に協力してくれたということで、非常に助かりました。

## Twitter を活用して身近な図書館へ

では、具体的な取り組みで何をやったのかというところですが、1つ目は twitter です。ご存じの SNS です。これは 2012 年の 6 月からスタートしました。学内の twitter としては、まだ他部署はやっていなくて、図書館が初めてでした。広報部が twitter を始めたのが、その 2 年後の 2014 年の 6 月です。ですので、学内ではかなり先進的な取り組みで、これこそが学生に向けて図書館は難しくなくて親しみやすい場所なんだということを知ってもらいたくてやりはじめたことでした。

現在、フォロワー数は約 2,800 人です。大学の中にあるアカウントとしては、たぶん最高に多いです。対象としては、在学生をターゲットにしていますので、受験生とか卒業生に向けたようなメッセージはあまり出さない内容です。なので、やっていることは、図書館のことばかりではなく、大学のお知らせとか、こんなことがあったよとか、急に雨が降ってきたよというようなことをやってきています。この twitter に関しては、2014 年に『短期大学図書館研究』で発表させていただいていますので、もしよろしければそちらもご覧いただければと思います。

twitter をやっている大学図書館では新着図書で今日こういう本が入りましたとか、データベースを使ってくださいといった情報の発信型が多いかと思えます。当館の場合はそういうことをやっていなくて、むしろコミュニケーションを大切にしています。積極的に学生のアカウントをフォローしたり、学生が図書館についてつぶやいていたら、それに反応してみたりというようなことをやっています。

気を付けていることとして、当然ですけれども誹謗中傷はしないとか、個人情報に触れないとか、あと、苦情が図書館宛てに送られてくることもあります。後でも出ますが、図書館にアクセスしてくる方法として、例えば直接来るとか電話とかメールとかいろいろあるのですが、そういう媒体では言ってくれなかったようなことを、twitter だと言ってくるんです。うるさいとか、24 時間やってくれとか言ってくるのですが、そのようなある

種の苦情にも、ちゃんとさっきの情報交流のポリシーをもってお答えするというのを頑張ってやってきました。それから、毎日必ずツイートしようとしません。1 カ月何もしないときもあつたりします。こちらから先にフォローはしないというような気遣いをしています。



この twitter が割と成功してしまったのですが、成功したというのは何かというと、2012 年に 12 万人台に落ち込んでいた館者数が、2013 年に 16 万人台まで持ち直して 30% 増になりました。手前味噌ではありますが、おそらくこの twitter をやっていたことが一番影響しているのではないかと思います。その後、15 万人に下がったりもしましたが、2016 年のところまでで大体 15 ~ 16 万人をキープできるようになってきましたので、当初掲げていた、学生の身近な存在になるというのはクリアできたのではないかと思います。

さらに思わぬ効果として、学内の他部署から意外に「図書館ってそんなことをやっているのね」というような新たな接点を持てるようになりました。twitter は本名で登録していない人が多いので、職員かどうかは分かりません。実は私見していますが、フォローしていますという声も聞かれるようになり、こちらから発信している企画展示の話とか、ポスターのデザインとか、学生はどういうふうに反応してくるんですか、何か問い合わせがあるんですかみたいなことも聞かれるようになりました。

## 館内の改装で使いやすく

もう 1 つは館内改装です。これはなかなか難しいかもしれないのですが、図書館の中のかかなり大

規模な改装工事を、2015年の8月、夏休み中に行いました。図書館自体は2008年にできたので、2015年というと7年後です。築7年で改装かという話なのですが、新図書館開館後、学生からのクレームが続いていました。開館当時、日本図書館協会の建築賞にもエントリーしたそうですが、照明が暗いという理由で落選になったそうです。そのとおりで、閲覧席も暗いですし書架照明も背表紙あるいはラベルが読み取れないくらい暗いです。また、ガラス面とかフローリングとか、非常にデザイン性は高いものの、運用面では困っているところがありましたので、その辺も改善したいということもありました。

例えば、明るさ対策で照明をLEDに交換したり、カウンターを移設したり、企画展示エリアを新しく設置したり、書架照明を入れたりということです。それでも2012年からずっと言い続けて、構想3年、実施1カ月でやっと2015年にできたわけです。2015年には閲覧席側、利用者サイドを改装したのですが、1年半後の2016年に事務室内のレイアウトも変更して、これで一応、当初思っていた設備的なところがコンプリートしたと思っています。

簡単にご紹介すると、このような書架で、左側がビフォア、右側がアフターです。奥の書架の上の照明が、ビフォアときは電球色で電球型蛍光灯が入っていました。ですので、くっきり見えません。アフターの方は、その部分を全部LEDの昼白色に換えましたので、よりくっきり見えるようになりました。これは大好評でした。

LED照明に交換



あと、カウンターも移設してしまいました。左側がビフォアです。図書館に入っていくと、ゲートの正面にアイランド型のカウンターがありまし

たが、ゲートに向かっては正面を向いて、閲覧席にいる学生には全て背中を向けているという状況があまりにもでしたので、右側のアフターのように、ゲートの横に閲覧席のほうを向いた形に作り直しました。

カウンター移設



カウンターを移設したところ、元の場所が空きました。そこに企画展示エリアを新設しました。これは特注の家具で、真ん中に照明が入る、行灯形になっています。展示の企画としては、人工知能とか、夏休み企画で大学生のための恐竜展とか、やる気を出しましょうとかを数多くできるようになりました。

その他、書架照明新設といったところで、さっきのLEDに換えた天井照明とは別に、円形の書架の縁のところに全部テープ状のLEDを貼って、書架が明るく見えるようにしました。当館は入口が2カ所あるのですが、先程のカウンターではないほうの入口を入った正面にこの丸い書架があります。こちらが入ったところでも目立つようになりましたので、ここに、授業で必ず使う指定図書を置くようにしているというようなこともやりました。

改装の最後は事務室内のレイアウト変更ですが、このような細長い事務室です。事務室には、カウンターがついていて、利用者が来ます。職員はカウンターに平行してパーティションを挟む形で向かいあって8～10人が座っているのですが、半分の方はまるっきり背中を向けている。カウンター側を向いている人はいるのですが、いざ利用者のいるカウンターに行こうとするとすぐ遠回りをしないといけないということで、動線がとても悪かったです。これも、閲覧席側の改装を機

に話しがしやすくなった施設部に頼んで、この細長いテーブルを半分に分けて島を2つにして、利用者には接しやすい形になりました。図書館内の改装と事務室のレイアウト変更は、どこの図書館でも気にはなっているところかもしれません。じゃあといってできるとは思えませんが、たまたま3年かけてやってみたらできたということがありますので、皆さんも諦めずにやってみてはいかがでしょうか。

あと、新しく企画展示エリアができましたので、そこで、さっき紹介したようないろいろな図書館独自企画、新入生向けとか、就活とか、夏休みの恐竜展などもやりますし、学内のいろいろな講演会と連携して、講演会をされる先生方に関係図書のリストをいただいて、その本を並べてイベントと連動するようなことをやってみたりしています。どうしても図書館の中にももってしまうことが怖いので、他部署との連携はずっと言うことで、連携もできるようになったということです。企画展示した図書は貸し出しも自由なので、貸し出されるとその棚がスカスカになってきて、利用されていることが分かりやすいですし、実際、当然ながら貸し出しも伸びるという結果になってきています。

### 授業での情報検索ガイダンスについて

次は教員向けについてです。これは授業でやっていることなので、最終的には学生向けなのですが、基礎演習という1年生の必修の授業で、全てのクラスで情報検索のガイダンスを1コマ分やっているという活動です。基礎演習のような授業はどこの大学でもあると思いますが、新入生が大学での学びや研究をしていくための基礎を身に付けるということで、テーマの探し方、設定、文献情報の検索の仕方、あるいは引用の仕方、プレゼンテーションの方法を学んで、最後にレポートを作るという授業です。本学では、2,400文字のレポートが最終的な課題となります。

15回の授業の中で1回分、大体第3週目ぐらいなので連休の前後の時期に、図書館の職員がお邪

魔して説明をさせていただきます。学部1年生が大体1,000人で、複数クラスを合同で実施することもあるので、回数にすると25～30回となります。これを、私も含めて3～4人の職員が交代で担当しています。ですので、1人が7～8回やることとなります。内容としては、レポートを書くために必要な情報源にはこういうものがあるということが分かるように、辞書、新聞、図書、論文の4つのリソースに分けて、図書館が提供できるそれぞれのリソースと入口を紹介して、簡単な使い方を説明しています。

これは以前から続いているものですが、2016年に内容を大幅に見直してみました。それまでの内容は、図書館の利用方法の説明があって、OPACで検索して、本を書架からいかに見つけ出して借りて使うかという説明が全体の半分以上で、あとデータベースもあるよといったものでした。

実際、利用状況を見ると貸出冊数も減っているのです。そういう中で、あまり紙の本の話ばかりしてもしようがないというのと、2015年から新入生は全員iPadを買わされるようになりました。ですので、今では全学生が持っています。iPadを常に持っている学生に変わってきたので、それならば図書館で契約しているデータベースとか、電子ジャーナルとか、あるいは電子書籍をどう使うかという話しに切り替えた方がいいのではないかと見直してみました。

これは、さっきご覧いただいた4つのリソースの区分けと同じです。OPACの話もしますが、それは全体で言うと4分の1に減りました。こういうような大改革的なことをやりました。

ガイダンス内容の刷新について

見直しを行ったのは、2015年に開催した第1回「Field Innovation」活動。本学への学内連携、産学連携や産学立派、産学立派の見える化など

	【従来のガイダンス】	【見直し後のガイダンス】
目的	図書館の利用方法の説明・告知	論文を目的とした、授業や研究の目的達成
対象	単位（図書館サービス）の提供	目的（論文作成）の達成
特徴	目的付	目的付（変更なし）
構成（冊）	① OPAC説明・検索実習 (40) ② 電子資料の紹介 (10) ③ 図書館サービス紹介 (10)	① 授業や研究について (10) ② 辞書・DBの活用方法 (10) ③ 辞書・DBの活用方法 (10) ④ 論文・DBの活用方法 (10) ⑤ 新聞・OPACの活用方法 (10)

実はこのときに、富士通さんにお手伝いをしていただきまして、フィールドイノベーション活動

という、簡単に言うと業務改善のような活動を並行してやっていました。その中で、改善すべきところは議論する中で、図書館から利用者へのガイダンスを見直しがあげられたという経緯があります。

内容を変えたのと同時に、そこで紹介しているデータベースが実際どのくらい使われているのかということを利用統計で検証していきました。ご覧いただいているのは年間ベースの利用回数ですが、2015年までと2016年にガイダンスの内容を刷新した後では、辞書・事典はちょっと減っていますが、その他は前年比増になっていて、特に論文、新聞に関しては50%も増えていることが分かりました。やはりどこかできちんと紹介しておく、ちゃんと使うようになるということです。

区分	2015年度	2016年度	前年比
論文	2,521件	3,895件	154%
新聞	3,070件	4,540件	147%
図書 (OPAC検索回数)	80,829回	94,844回	117%
図書 (貸出冊数)	3,916冊	4,389冊	112%
入館者数	75,433人	82,042人	108%
辞書・辞典	1,715件	1,545件	90%

このようなデータが取れてきましたので、INFOSTA（情報科学技術協会）が毎年開催しているINFOPROという情報プロフェッショナルシンポジウムで、昨年11月にガイダンスの内容の変更に伴う電子資料の利用の影響検証という発表もさせていただいております。

ガイダンスを変えるということと、それを検証するという事に取り組んできました。このように、検証結果が出せると職員とも共有できて、みんなで汗をかいてやった結果こんなに伸びたという認識がまたやりがいにつながるのではないかと考えています。

## そして迎えた2017年

ここまで結構いろいろ頑張ったのですが、2017年（昨年）、何と6年前と同じ12万人台に激減してしまいました。このM字ラインです。



これはたまたまかなと思われるかもしれませんが、そこで、今年の4月から7月までの入館者数を比較してみると、6万9,000人台ということで、昨年とそれほど変わりませんでした。16万人を誇ったときは7月までで8万人来ていましたので、このペースでいくと今年も昨年同様の12万人台が見込まれます。これはなぜかという、簡単です。8号館という新しい建物が昨年の4月にできた影響です。そちらにお客さんが流れたという、とても分かりやすい原因です。

8号館は、ここは英語専門の学習施設です。建物全体が学習空間とネイティブ教員の研究室と教室になっていて、ここに行ったら英語でしゃべらなければいけないという状況、あるいは、英語の課外学習のための学習支援も受けられるというようなところになっています。同じ機能を持つ施設は以前からありましたが、8号館として拡大移転しました。

キャンパス内の配置をご覧くださいと、新しくできた8号館は、キャンパスの真ん中です。実は、こっちの上に行くともっと寄りの駅があるので、この入り口から来る学生が結構多いんですね。本当にキャンパスの真ん中で、学食も近い。片や図書館はキャンパスの一番奥にありますので、立地条件からして負けてはいるのですが、8号館のほうに純粹に流れました。ただ、残念なのは、8号館は図書館と違ってゲートのシステムが導入されていないので、多くの学生に利用されていることは分かりますが、実際に何人使っているかがはっきりしていません。



### 新しくできた8号館について

※当日は動画を見ていただきました。

8号館の中は、少し昔のアメリカ・ニューヨークというコンセプトで、アンティークな家具が置いてあり、空港のような、吹き抜けの広い空間です。これは入口のちょっと横のところですが、学生がいっぱいいますね。2階は、本当に英語しかしゃべってはいけない場所です。ネイティブ教員が待ち構えていて、英語で話し掛けるという場所なのですが、ここにもちゃんと学生はいるのです。

この英語学習施設は、まるっきり新しくできたわけではなく、それまでは図書館の隣の建物にあって、今年の工学30周年記念に合わせて完成しました。

こちらは同じ日の図書館です。どの席にも結構いると思いませんか。閲覧席がトータルで300席あって、これが一番静かなキャレル風の閲覧席ですが、結構います。窓際の席や館内全体に学生が来ています。

図書館の学生アルバイトに聞くと、8号館はうるさくて勉強できないという意見もあります。フリートークできて、食べ物もOKなんですね。そのため、勉強したいときは図書館に来ますという、非常にありがたい声も聞こえています。確かに、非常に静かです。「しゃべらないで」とか「静かにしてください」という掲示も、職員が注意することはありません。それぐらい静かに勉強してくれています。ですので、勉強する学生は確かに来ていると思うのですが、数字で見ると2割減ってしまいました。こういう現実があります。やはり場所には勝てないということと、結局、図書館

でもきるけれども、みんなでしゃべりながらでもできる勉強は、そっちのほうに流れていくという現実もあるかと思います。

### さらなる取り組みへ

ここまで、ほぼオチがついたように「いろいろ頑張ったけれども、はみ出す活動をしたけれども、場所には勝てなかったよね」と言うところの先がありません。ですので、そうは言っても少し頑張ってみようと思いました。

本学には、神田佐野文庫という貴重図書のコレクションがあります。佐野というのは、学校法人佐野学園の名称からきています。神田佐野文庫は、以前は洋学文庫と呼ばれ、幕末前後ぐらいにオランダ語や英語など西洋の言葉を日本人が学ぶ、その時期に輸入したり独自に作ったりした外国語の学習に関する資料等を収集したものです。有名などころでは、2年前にシーボルトの直筆の書簡が発見されて、いくつかの新聞にも載りました。その展示コーナーを3号館に新設する予定です。

3号館はキャンパスの真ん中にあります。場所的にデメリットの多かった図書館ですが、3号館という真ん中、教室がある建物に出店を置くことに成功しました。神田佐野文庫の展示がメインではありますが、図書館管轄の場所ができましたので、そこでこれからいろいろできるなと思っております。

実はもうひとつ、この3号館の展示コーナーの向かいに80型のサイネージを付ける計画です。この3号館の中には学内売店があります。そこを今年の4月に改装してコンビニ風にしたところ、非常に多くの学生や教職員が利用するようになりました。図書館の前にもサイネージはありますが、通行量の多いこちらの方が効果的です。

今後、このサイネージをきっかけに、学内全体のサイネージにも図書館が関与できたらよいのではないかと考えています。もしかしたらこの辺が「はみ出している」かもしれません。10年ぐらい前に機関リポジトリが開始したときに、当時千葉大学の土屋先生が「これからの図書館は機関リポ

ジトリをやって学内の研究成果を図書館から発信していかないと、仕事なくなるよ」と言っていたのをご存じの方はいらっしゃるでしょうか。それと無理やりに通わせているのですが、図書館は学内の情報をちゃんと集めて、整理して、学内へ知らせる。対象は学生がメインですが、先生や職員でもいいです。それをサイネージでやるのもありなのではないでしょうか。

大学あるあるで、皆さんもそうだと思いますが、自分の大学の中で今日どんな説明会やイベントがあるかを知らなかったりしませんか。急に人がたくさん来て、調べてみたら何かの講演会をやっていたみたいなことです。そういうことをきちんと整理して、的確にサイネージで出していくということです。情報の収集、整理、発信、提供は、図書館でやったらすごく得意だと思うのです。

#### では、図書館は何をすればいいのか

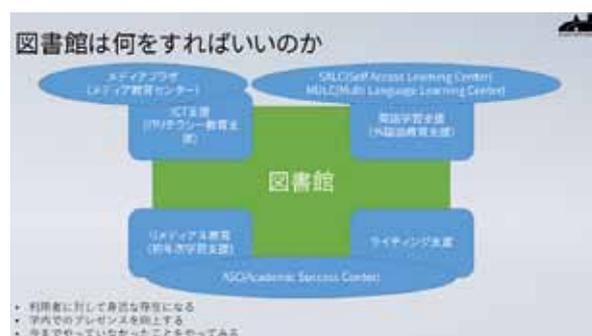
最後に、何でこんなことをやってきたのかというところで閉じたいと思うのですが、最初、2012年に、「活性化」と言われて何をすればいいのかを考えました。図書館の役割ですね。例えば、ICT支援、ITリテラシー教育みたいなことを図書館でやったらどうでしょう。学生はiPadを持っているので、使い方に困っていたら図書館に行こうと思うでしょう。これはもしかしたら活性化につながるかもしれません。でも、皆さんのところもそうかもしれませんが、そのような業務は情報システム系の別部署がやっています。

例えば、リメディアル教育、初年次教育も、図書館でできるかもしれません。よく入学前課題なんかで図書館で課題図書を出したりします。あと、ライティング支援もそうです。レポートの書き方などを、実は図書館の中でやっていました。ですが、うちの場合だと、アカデミックサクセスセンターという別部署が昨年立ち上がり、リメディアル教育とライティング支援をやることになったので、ここも移っていきました。

それから、英語学習支援です。外国語学部ではない学部の大学の場合は、例えば理工系の学部で

英語も必要だということで、図書館で多読本マラソンなどをされるかもしれません。そういう外国語の支援も図書館でできるのですが、うちの場合は、さっきの8号館をはじめとするところが専門でやっています。

このように捉えると、図書館でできることがすごく少ないように見えてしまうのです。しかし、本当はもっといろいろなことができるのではないかと、ということを考えてみた結果です。



当館の twitter では新着図書の話などはあまりしないというお話をしましたが、一番「いいね！」やリツイートの数が多いのは、天気の話と、図書館の周りにお花が咲きましたとか、ここにこんな虫がいましたというような話です。これを、もし教務課の twitter アカウントで「教務課のカウンターにチョウチョが飛んできました」とツイートしたらどうなると思いますか。大炎上です。「教務課、仕事をしろ」と絶対炎上するのですが、図書館であれば「いいね！」が伸びるのです。

図書館というのは、意外に何でもできます。だから、硬いも軟らかいもあるのですが、意外に何をやっても OK だと思います。できれば硬いほうに寄せたいのですが、こういうやり方も一つあるのかなと思っていただければありがたいと思います。ここまで、少しお恥ずかしい部分もご紹介させていただきましたが、以上で私からのお話を終わりとさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

#### 【参考文献】

- ・吉野知義. 新たな学習交流拠点を目指して: 神田外語大学附属図書館の取り組み. 私学経営. 2016, no. 502, p. 36-42. <http://ci.nii.ac.jp/>

- naid/120005894196/ja/, (参照 2018-09-30).
- ・吉野知義. 図書館職員による館内サイン改善の取り組み: Library with Design and Ideas. 図書館雑誌 = The Library journal. 2018, vol. 112, no. 2, p. 90–91. <http://ci.nii.ac.jp/naid/120006415233/>, (参照 2018-09-30).
  - ・吉野知義. SNS を使った学生とのコミュニケーション(全国研修会報告 利用者とのコミュニケーションを考える). 短期大学図書館研究. 2014, no. 34, p. 127–132. <http://ci.nii.ac.jp/naid/120005675291/>, (参照 2018-09-30).
  - ・吉野知義, 菊地高志, 白幡恵子. 図書館ガイダンスの刷新による利用状況への影響の検証. 情報プロフェッショナルシンポジウム予稿集. 2017, vol. 2017, p. 73–76. <http://ci.nii.ac.jp/naid/130006192907/>, (参照 2018-09-30).
  - ・吉野知義. ウチの図書館お宝紹介!(第169回)神田外語大学附属図書館所蔵「洋学文庫」－シーボルト直筆書簡・ラーナウ『諸術秘蔵』－. 図書館雑誌. 2017, vol. 111, no. 4, p. 246–247. <http://ci.nii.ac.jp/naid/120006310479/>, (参照 2018-09-30).

## 司書課程と連動した学生協働の取り組み

武庫川女子大学附属図書館 図書課長

川崎 安子

## 1. はじめに

本日の実施要領の中で「従来の大学図書館の枠をはみ出した活動をされている2つの大学図書館」と書かれており、思わず失笑しました。確かに、本学で実施している様々な取り組みは、大学図書館としてやるべきことなのだろうかというご批判があるかもしれません。頂戴しましたお題は「司書課程と連動した学生協働の取り組み」ですので、主として学生協働にまつわるお話をさせていただき予定です。本学では図書館司書課程を開講しており、特定の学科を除いて、希望すれば諸資格課程の一つとして司書課程を履修することができます。その司書課程を履修している学生たちとの協働事業をご紹介します。よろしくお願いたします。

私自身の簡単なプロフィールを申し上げますと、司書資格を取得後、武庫川女子大学に奉職し、在職研修制度を活用して大学院に進学しました。現在は図書課長と司書課程の講師として職員・教員の両方の身分を有しています。

- 大学 文学部4学科、健康・スポーツ科学部1学科、生活環境学部4学科、音楽学部2学科、薬学部2学科、看護学部1学科
- 短期大学部7学科
- 大学院 6研究科12専攻、1専攻科
- 附属高等学校、附属中学校、附属幼稚園、附属保育園
- 学生数：学部8,195名 短期大学部1,649名  
大学院・専攻科306名
- 専任教員数：大学363名、短期大学部66名
- 専任職員数：197名 (2018年5月現在)

## 武庫川女子大学の紹介

武庫川女子大学の紹介ですが、文学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、音楽学部、薬学部、看護学部、そして短期大学部があります。学

生数は約1万人、大学院だけ共学です。ほかに附属の保育園、幼稚園、中学校・高等学校があります。

- 所 在：兵庫県西宮市
  - 館 数：中央図書館、薬学分館、甲子園会館分室、アメリカ分校図書室
  - 蔵書数：図書約68万冊、雑誌約1万種、電子ジャーナル約6万誌、電子ブック約4万冊、視聴覚資料約1万4千点
  - 資料購入費：約1億4千万円/年
  - 入館者数：約46万人/年
  - 貸出冊数：約18万冊/年
  - 職員数：専任3名(うち有司書資格者2名)  
委託職員39名(うち有司書資格者34名)
- (2017年度実績)

## 附属図書館の概要

附属図書館の概要ですが、兵庫県西宮市に中央図書館、薬学分館、甲子園会館分室があり、職員数は専任職員が3名、委託職員が40名です。15年前の2003年に、まず目録装備を外部委託し、翌2004年に閲覧業務を委託しました。現在は、レファレンス業務を含め、全面業務委託となっています。

2013年には中央図書館の大改修を行い、それまでは、おしゃべりは駄目、飲食も充電も禁止という、静謐(せいひつ)な昔ながらの大学図書館でしたが、多くの学生が集うランドマーク的な図書館をつくっていかうじゃないかという話になり、大きく様変わりしました。ゾーニングをかなり意識しながら7層ある全フロアを改装し、話をしてもいいゾーン、静かに集中して勉強するゾーンといった具合に、様々な目的に応じて来館してもらえるようにフロア構成を変えました。

これにより、改修前後で比較すると入館者数は実に209%になりました。貸出冊数は年間で119%になりましたが、改修直後は160%まで伸びまし

た。ちょうどこのころ司書課程の新カリキュラムに合わせて図書館が司書課程の主管部署となり、シラバスやカリキュラムマップの作成、履修管理や単位認定、資格証の授与に至るまで、司書課程に関わる教務事務はすべて図書館で行うようになりました。特に履修者数が改修前後で20%増加し、図書館で働きたいと思ってくれる学生が増えたことと、仕事帰りや休日などに母校の図書館で勉強される卒業生の方が激増したことが嬉しい結果でした。

いわゆる一般開放はまだしておりませんが、0歳児から大学生まで、大学附属のすべての園児、生徒、学生の保護者の方も図書館を利用できるようにしています。そのほか「オープン・ライブラリー」と銘打って市内在住・在校の中学生・高校生に図書館を開放しています。男子生徒も利用可能です。

中央図書館内には多くのラーニングコモンズを設置し、授業の教室としても活用されています。先月末、世界各国の大学とラーニングスペースの調査を長年されているパリデジタル大学のジョン・オージェリ氏が来館され、図書館の中にラーニングコモンズがある活用事例としては日本を代表する大学図書館だろうと評価していただき、大変光栄に思いました。

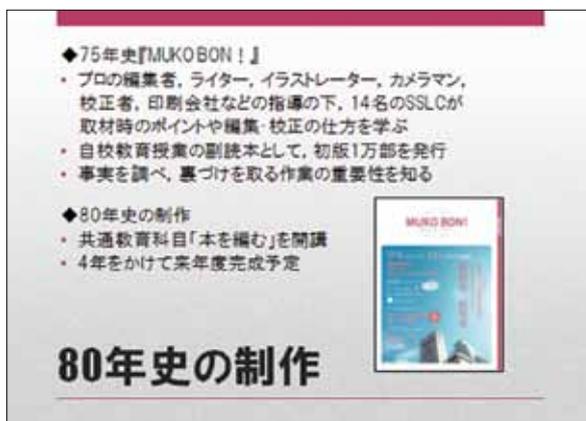
先ほど、中央図書館の改修前後で司書課程の履修生が増えたという話をしました。それが図書館への期待度と相まっての数字と喜んでばかりもおれず、司書の資格をまるでMOSとか秘書検定、TOEICやTOEFLのように、持っておけばいつかは役立つかなという程度の資格の一つとして捉える学生が増えたことがデメリットとして挙げられます。「私はまったく本を読みません。」と公言する学生が履修するようになったのです。このままではいけないと、事前の履修説明会のときに、専任の司書募集はほとんどなく、司書として採用されたとしても多くは非正規職員で経済的に余裕がない年取であることや、何より人と本を結びつける使命をもつ司書として、書籍への愛着や読書習慣がないことは致命的である旨を説明すると、だんだん数字が落ちてきてきて、現在約500

名の履修生が在籍している状況です。

## 2. 学生協働の変遷

学生協働の取り組みの変遷ですが、これも図書館を改修する前と後でかなり変化しました。改修前は、他の多くの大学様でも実践されているようなブックハンティングや、全学生を対象にした見計らい図書の見出し、オープンキャンパスでの図書館案内などを一緒にやってもらう活動をしていましたが、改修後は、図書館を学びの場として積極的に使ってもらおうというコンセプトのもと、SSLC (= Student Staff for Library Commons) という学生アルバイトを採用するようになりました。

このSSLCによる活動は、従来型の図書館のルーチン業務をするのではなく、色々な分野のプロフェッショナルな方の指導を受けながら成果物を整えていくことを前提としており、いわばインターンシップのような位置づけとなっています。具体的には、本づくりやカフェ運営、図書館スタッフのユニフォーム制作、イベント企画・展示などに取り組んでももらいました。



まず本づくりに関しては、学生による創立75周年誌を制作するという企画を考えました。実際に活躍されている編集者、記者、印刷業者などの方々を講師役に、公募で選んだ14名の学生とともに年史『MUKO BON!』を作ったわけです。ありがたいことに学内外で高い評価をいただき、来年に80周年を迎えるのですが、今度は4年間の授業の中で80年史も学生と一緒に作ろうということになりました。共通教育科目の中に組み込んで、プロの編集者の方々に指導してもらいながら、来

年まさに 80 年誌ができる予定です。



続いて、中央図書館の中にライブラリー・カフェを設置しました。西宮市内にあるパン屋さんや珈琲専門業者さんに協力してもらい、本学オリジナル商品の企画からカフェの営業、顧客満足度調査までをカフェ部門の SSLC に取り組んでもらいました。SSLC が着用するエプロンや司書スタッフのユニフォームは、阪急百貨店さんと一緒に制作し、お披露目の際には図書館内のグローバル・スタジオでファッションショーを行い、学生にも大変喜んでもらえた取り組みとなりました。

共催・巡回企画展示としましては、アジア諸国の言語で書かれた様々な資料を収集されている大阪のアジア図書館と連携し、世界中の言語に翻訳された日本の絵本展を企画しました。連日遅くまでパネルや POP、目録の作成に奮闘する学生たちの姿に私たちも励まされました。以降、兵庫教育大学の教材文化資料館や東京の千代田区立千代田図書館との巡回展示などを展開しています。

また、MLA 連携の一環として、本学が指定管理者を務める芦屋市谷崎潤一郎記念館とも協力し、『文豪ストレイドッグス展』の限定グッズ開発に学生が参画しました。芦屋市としては、若い世代の入館者数をもっと増やしたいというご希望がありだったのですが、この展示に学生が関わることで、10～20 代の若者の入館者数が前年度の入館者数全体を超えるほどの盛況ぶりとなりました。

出版社との連携にも力を入れており、最初にお声がけいただいたのが書物復権の会でした。岩波書店、紀伊國屋書店、勁草書房、青土社、東京大

学出版会、白水社、法政大学出版局、みすず書房、未来社、吉川弘文館による共同復刊事業の会です。皆さまのお手元にも復刊リストの案内が毎年届いているかと思いますが、後世に読み継がれていくべき人文系専門書約 700 冊を集めた専用のコーナーを閲覧室に設け、面出し展示をしています。その他、青土社、亜紀書房、紀伊國屋書店、作品社、白水社、みすず書房の 6 社の企画で世界のノンフィクション作品をテーマにした特別展示や、今年 10 月には芸術の秋に合わせた、美術系図書の出版社 10 社との美術書フェアも企画中です。このように出版社との関わりも積極的に進めていきたいと考えています。館内の至るところに企画展示を設けることで学生が本を手にする機会が増え、貸出率も年々上がっています。

### 3. 授業との連携

本学では、授業の教材としての絵本の需要も非常に高いのですが、全学の学生が受講できる共通教育科目の一つに「未来造形」という科目があり、現代美術作家として活躍されているアーティストを講師に、ストーリーから製本に至るまで、世界で一冊の手づくり絵本を制作するという授業を指導してもらっています。その中で人気の高かった、本人たちの許諾が取れた絵本を図書館の蔵書として受け入れています。



そのため、著者である学生の名前で OPAC 検索をするとヒットするので、学生はちょっとした作家気分を味わうことができると、大変喜ばれています。結婚出産後、お子さんを連れた卒業生が来館され、「これがママの書いた絵本よ。」と語りか

けながら読み聞かせをしている姿を拝見することもでき、私たちも幸せな気分になりました。

もう一つは、司書課程の授業で取り組んでいる「R.E.A.D. プログラム」という読書プログラムです。1999年にアメリカのユタ州ソルトレークシティの中央図書館が最初に行った、読書介助犬による動物介在活動です。訓練を受けた犬に子どもたちが読み聞かせをして、読書習慣やコミュニケーションスキルを上げていくもので、実際に教育的効果が認められています。「犬に読み聞かせ?」と思われるかもしれませんが。アメリカでは移民のお子さんがたくさんいます。例えばクラスルームで「じゃあ、次、〇〇ちゃん、読んでね。」と先生から本読みを指示されたときに、英語を母語としない子どもだと、発音やイントネーションがおかしかったり、うまく読むことができなくて、クラスメートから「変な読み方!」と笑われたりする場面が想像できます。それにすごく傷ついてしまった子どもは、人前で話をするのが嫌になってしまい、心まで閉ざしてしまいかねない。ところが訓練を受けた犬は、相手が言葉に詰まろうが変な読み方であろうが決して笑いませんし、じっと耳を傾けてくれますので、何回も繰り返すことによってだんだん苦手意識を克服できるのです。



これを、日本の図書館では本学が初めて取り組ませていただくことになり、附属幼稚園の園児や地元の小学生に参加してもらって、司書課程の学生たちと実践しています。このような集会活動も司書の大切な仕事であると認識してもらえればと思いつながり開催している読書プログラムです。

#### 4. 英語学習支援

他部署連携、教職協働というキーワードで図書館の活動を見た場合、本学では英語学習支援に力を入れています。英語の多読書はどここの大学でも所蔵されていると思いますが、当館では紙書籍を約15,000冊、電子書籍を約560冊備えて利用に供しています。ほかに、国際センター主管で、ネイティブの教員と一緒に英語で話しながら英会話スキルを上げていく「イングリッシュ・プラザ」という語学プログラムを毎ランチャタイムにライブラリー・カフェで開催しています。当初は週3日の計画で始めたのですが、毎回長蛇の列ができて大人気となり、現在は月～金曜日の週5日実施しています。

イングリッシュ・プラザでは物足りなくなった学生たちには、「インターナショナル・プラザ」という高次の別プログラムを用意しており、なおかつ、英語のライティングを支援する「ライティング・プラザ」も図書館で提供しています。常々私は図書館のサービスとしてライティング支援を行うことを目標にしていました。幸運にも考えを同じくする教員が複数おり、外国語教育支援室の協力を得て話がまとまり、学内の補助金事業に応募したところ見事採択されたのです。授業開講期に週3回実施し、英語のレポートや抄録などを事前に提出し、外国人講師に对面でチェックしてもらおうという流れです。他大学の先事例にもあるように、本来であれば大学院生や上級学生に指導してもらえたらよかったのですが、本学ではTESOLの資格を持っている外部講師が対応してくれています。英語文化学科との授業連携で、英語多読書のブックレビューを書かせるという課題が必ず出され、ライティング・プラザでチェックを受けてから提出する仕組みになっていることから、予期待ちになるほど多くの学生に利用されています。

この成功を受けて、2017年度からは日本語のライティング支援も開始しました。レポートの課題は山ほどあるのに、ちゃんとフィードバックしてくれる教員が少ないので、果たしてこの書き方で良いのか分からないままレポートを提出してきた、という学生が予想以上に多かったことが背景

にあります。チェックを受けて具体的な指導を受ける中で、自信を持ってレポートを出せるようになったとの声が多く聞かれましたので、書く力をサポートすることも大学図書館が担うべき大事な役割ではないかなと思っております。

あと、学内にはもちろん留学生がおりますので、英語のほか韓国語・中国語でも入力できる多言語端末や、Skype ができる PC を用意し、内外の大学との連携授業もできるテレビ会議システムを導入しています。中央図書館2階のグローバル・スタジオでは、イングリッシュ・シャワー・エリアを設けておりまして、CNN の放送やアカデミー賞を受賞した映画作品を上映したり、アメリカ大統領選挙の時にはパブリックビューイングも実施しました。

スライドの最後にある「MELs」というのは、学内構成員が英語スキルを上げるためのEラーニングプログラムとなっています。

英語多読書 約1万5千冊  
 // (電子書籍) 約560冊  
 English Plaza  
 International Plaza  
 Writing Plaza  
 多言語端末, Skype  
 イングリッシュ・シャワー・エリア  
 海外の大学とのテレビ会議  
 MELs (Mukogawa English Learning Support system)

**英語学習支援**

## 5. MWU 電子図書館

昨年度より「MWU 電子図書館」を立ち上げました。学術書を中心とした電子書籍を所蔵されている大学さんはたくさんおありかと思いますが、MWU 電子図書館で扱う電子コンテンツは、一般的な読みもの、小説の類、あるいは資格関係の問題集、就活対策本などに特化しており、大学図書館では積極的に購入したくない消耗図書を中心に購入しています。プラットフォームは、JDLS が提供している LibrariE (ライブラリエ) を使用しています。このプラットフォーム自体は無料ですので、お試しでやってみようかということで始めました。

MWU 電子図書館 Mukogawa Women's University e-Library

約7,500コンテンツ

利用状況

- ◆2017年度10月～3月 2,186件
- ◆2018年度4月～7月 2,946件

独自資料を多彩に

- ◆雑誌『教職課程』
- ◆雑誌『教員養成セミナー』
- ◆教員採用試験過去問
- ◆修士論文、卒業論文

ログイン履歴

閲覧履歴

**MWU 電子図書館**

現在のコンテンツ数は約7,500タイトルですが、その2割は本学の独自資料が占めています。2019年度から文学部教育学科を改組して教育学部を設置することになりましたので、対応した取り組みとして、コアジャーナルである『教職課程』と『教員養成セミナー』を電子コンテンツとして販売してほしいと直接出版社に出向いて交渉をしました。紆余曲折の末に了解いただき、PDF化された電子版を電子図書館に搭載しています。すでに非常に人気の高いコンテンツになっています。

教員採用試験の過去問題集も準備しました。教職課程を開講されている大学では毎年大量の過去問を買っておられると思いますが、購入受入・除籍の作業を繰り返し、現場では大変な労力がかかっています。これらも電子版で提供できればと考え、時事通信出版局に相談したところ、全自治体の過去問のPDF版(約1,200点)が入手可能となり、独自資料として電子図書館に搭載することができました。

リポジトリで公開できない修士論文、卒業論文も搭載しています。LibrariEは、もともとダウンロードやコピー&ペーストができないように設定されており、学内構成員だけがログインして本文閲覧ができるシステムですので、リポジトリで公開することはできないけれども、電子図書館内であれば搭載してもよいと判断された修士論文や卒業論文を独自資料として提供しています。

利用状況は大変好調で、半期ごとの利用統計を載せていますが、徐々に認知されている様子が見えがえます。これらの電子書籍の利活用についても司書課程の学生たちと一緒にPR活動を展開し

ています。

まず、電子書籍を使ったビブリオバトルを開催しました。チャンプ本になったのは、70年代、80年代の懐メロが大好きという学生がプレゼンテーションした、阿久悠さんの『夢を食った男たち』でした。電子図書館にはハイライトの機能もありますので、モニターで本文を共有しながら見ることができます。ですから、読書会も可能ですし、テーマを設定した棚作りもできます。もちろん、音声読み上げとか文字拡大、白黒反転、ページ自動送りなどの機能も備わっていますので、うまく使いこなせば電子書籍はとても使い勝手がいいということを強調しています。

ただ、司書課程で学ぶ学生たちは、基本的に紙書籍への愛情が強いため、電子書籍に対するアレルギー反応が強く、逆に看護、食物、薬学といった理系学科の学生たちに受け入れられている様子がアンケート結果では出ました。実験や実習で日々忙しく過ごしている中で、図書館へ足を運ぶ時間がない中、通学電車やバス、休み時間、就寝前などの隙間時間を狙って電子図書館を活用しているようです。独自コンテンツは授業の副教材としても案内されているので、利用率は今後さらに上がっていくと予想しています。



「電子書籍の森」というコーナーも新しく設置しました。お薦め本のPOP作成はどここの図書館でも取り組まれています。電子書籍の場合はQRコードも学生たちに作成してもらいます。グループワークでブックリストも作りました。

## 6. おわりに

毎年度、本学では「読書に関わるアンケート調査」を実施しています。全学生を対象に毎日新聞社の読書世論調査と同じ質問をし、全国平均と本学の学生とでどのような差異が見られるかを調査するとともに、図書館への満足度も見ています。全国平均と比較して特に顕著なのが、読書習慣の有無の二極化です。そのため、本や新聞をまったく読まない学生集団をいかに活字好きにさせるか苦心惨憺しているところです。このWEBアンケートの回答者数は毎回1,000人ほどで、「アンケートにご協力を！」と依頼して実際に協力してくれるのは、授業アンケートなどと同様に、良い印象を持っているか、あるいはその逆のどちらかになります。そう考えると、うち8割の学生が図書館に対して「満足」「ほぼ満足」と回答している現状にひとまず安堵しています。ただ、同時に頂戴する苦言もまた貴重であり、すぐに着手できることであれば改善し、図書館運営に生かしていくというPDCAサイクルを意識しています。

今回のお題が司書課程における学生協働でしたので、このテーマにフォーカスするならば、今後の展開としては、司書課程の主管部署として図書館をインターンシップの場として提供しつつ、経験値の高い司書を輩出することが責務であると認識しています。多くの実務実習を通じて司書の役割や、仕事をするという自覚、課題解決の目線を醸成できればと思っています。さらには、大学図書館本来の役割である情報活用能力とかICTスキルの醸成、コミュニケーションスキルの向上も含め、生涯にわたって活字文化を支える良き読者を育ててまいります。

以上、大学図書館の粋をはみ出した私どもの活動事例をご紹介させていただきました。ご清聴ありがとうございました。

## 行 事

### 第 72 回 (2018 年度) 東海地区大学図書館協議会 総会・研究集会

#### 【総会の部】

日 時：平成 30 年 8 月 24 日 (金) 10:00 ~ 16:55

会 場：愛知大学名古屋校舎講義棟 7 階 L705 教室

総会当番館：愛知大学図書館

出席者：53 館 85 名

図 書 館 名		職 名
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 岐阜県 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
1	岐阜大学図書館	学術情報課長
2	岐阜医療科学大学図書館	司書
3	岐阜薬科大学附属図書館	嘱託司書
4	情報科学芸術大学院大学附属図書館	司書
5	中部学院大学附属図書館	司書
6	東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館	課長
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 静岡県 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
7	静岡大学附属図書館	学術情報部長
8	静岡県立大学附属図書館	事務長
9	静岡県立大学短期大学部附属図書館・静岡県立大学附属図書館小鹿図書館	事務長補佐
10	静岡文化芸術大学図書館・情報センター	情報室 図書係副主幹
11	静岡理工科大学附属図書館	図書課長
12	東海大学付属図書館清水図書館	係長
13	東海大学短期大学部図書館	図書館長
14	常葉大学附属図書館	司書 司書
15	浜松医科大学附属図書館	学術情報課長
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 愛知県 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
16	愛知学泉大学図書館	司書
17	愛知教育大学附属図書館	学術研究支援課図書館運営室長
18	愛知県立芸術大学芸術情報センター図書館	図書情報係長
		契約職員
		豊橋図書館主幹
19	愛知県立大学学術研究情報センター	図書情報課長
		学術情報課長

図 書 館 名		職 名
		契約職員
		契約職員
20	愛知工業大学附属図書館	図書館長
		課長
		係長
21	愛知淑徳大学図書館	事務主任
		司書
		司書
		委託職員
		委託職員
22	桜花学園大学図書館	係長
23	名古屋短期大学図書館	
24	金城学院大学図書館	課長
25	椙山女学園大学図書館	課長
26	星城大学図書館	司書
27	大同大学図書館	図書館室長
28	中京大学図書館	部長
29	中部大学附属三浦記念図書館	図書館事務部長
		図書課長
30	東海学園大学図書館	課長代理
31	同朋大学・名古屋音楽大学図書館	課長補佐
32	名古屋造形大学図書館	
33	豊田工業大学 総合情報センター	図書館職員
34	豊橋技術科学大学附属図書館	教務課 情報・図書室長
		教務課 情報管理係係員
35	豊橋創造大学附属図書館	
36	名古屋大学附属図書館	附属図書館長
		事務部長
		次長
		課長補佐
		図書系主任
		事務補佐員
37	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館	課長
38	名古屋学院大学学術情報センター	課長
39	名古屋経済大学図書館	主査（司書）
40	名古屋芸術大学附属図書館	東キャンパス室長

図 書 館 名		職 名
41	名古屋工業大学附属図書館	学術情報課長
42	名古屋女子大学学術情報センター	センター長補佐
43	名古屋市立大学総合情報センター	主査
		事務系職員
44	名古屋文理大学図書情報センター	係長
		係長
45	南山大学図書館	主事
46	日本福祉大学付属図書館	事務職員
47	人間環境大学附属図書館	司書
48	藤田学園医学・保健衛生学図書館	課長
		主任
49	名城大学附属図書館	課長
		出向職員
<input type="checkbox"/> ■ 三重県 ■ <input type="checkbox"/>		
50	皇學館大学附属図書館	事務嘱託
51	三重大学附属図書館	附属図書館長
		学術情報部 情報・図書館課長
52	三重県立看護大学メディアコミュニケーションセンター附属図書館	司書
<input type="checkbox"/> ■ 当番館 ■ <input type="checkbox"/>		
53	愛知大学図書館	図書館長
		名古屋図書館事務課 課長
		豊橋図書館事務課 課長
		名古屋図書館事務課 係長
		豊橋図書館事務課 係長
		司書

## 総 会 議 事 要 録

### I 開会

### II 挨拶

愛知大学学長 川井 伸一  
東海地区大学図書館協議会長 森 仁志

### III 議長選出

愛知大学図書館長 西野 基継

### IV 報告事項

#### 1 国公立の各大学図書館の活動状況、当面の課題等について

国公立の各協議会の理事校・幹事校（名古屋大学、愛知県立大学、愛知大学）から報告があった。

#### 2 その他

報告事項なし

### V 協議事項

#### 1 平成 29 年度事業報告

事務局から平成 29 年度の事業について次のとおり報告があった。

##### (1) 第 71 回（2017 年度）総会

平成 29 年 8 月 22 日（火）  
会場：豊橋技術科学大学マルチプラザ  
総会当番館：豊橋技術科学大学  
(54 大学 85 名参加)

##### 1) 報告事項

国公立の各大学図書館の活動状況、当面の課題等について（名古屋大学、愛知県立大学、愛知大学）

##### 2) 協議事項

平成 28 年度事業報告、平成 28 年度決算報告・同監査報告、平成 29 年度事業計画及び予算、平成 30 年度総会当番館について、永年勤続者表彰（14 名）

##### (2) 研究集会

平成 29 年 8 月 22 日（火）

テーマ

「知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供」  
講演

「書く力を磨く！ライティングセンター」  
－広島大学図書館の挑戦－

上田大輔（広島大学図書館・ライティングセンター）

##### (3) 研修会

##### 1) 図書館職員基礎研修（第 6 回）

平成 29 年 11 月 17 日（金）

会場：名古屋大学附属図書館

研修担当館：名古屋大学附属図書館

(23 大学・機関 40 名参加)

講義「レファレンス（現場からの具体的な事例紹介）」

佐藤美穂（名古屋大学附属図書館）

講義「図書館若手職員の経験談」

井出直樹（静岡文化芸術大学図書館・情報センター）

東槇典子（名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館）

鰐部美香（名古屋大学理学図書室）

講義「これからの図書館に期待するもの」

演習

広報・展示「朝刊の記事から pop を作り、2 時間以内に資料を展示－安城市図書館情報館「日めくり展示」にチャレンジ」

押樋良樹（図書館コミュニケーションデザイナー）

担当業務別グループによる討議・発表

##### (4) 「東海地区大学図書館協議会誌」62 号

平成 29 年 12 月 28 日（木）発行

##### (5) 運営委員会等

##### 1) 監事会（平成 30 年度、平成 30 年 6 月 7 日

（木）、会場：名古屋大学附属図書館）

監事館：愛知県立芸術大学、中部大学

- 2) 機関誌編集委員会（平成 30 年度、平成 30 年 6 月 19 日（火）、電子メールによる審議）  
 3) 運営委員会（平成 30 年度、平成 30 年 6 月 25 日（月）、会場：名古屋大学附属図書館）

鈴木 明美（豊橋技術科学大学）  
 加藤 恭子（名古屋大学）  
 杉山 陽子（藤田保健衛生大学）  
 森田 ゆかり（藤田保健衛生大学）  
 上村 容子（三重大学）  
 河原 千夏（三重大学）  
 北村 真奈巳（三重大学）  
 樋口 あけみ（三重大学）

## 2 平成 29 年度決算報告・同監査報告

事務局から、平成 29 年度の決算について報告があり、続いて、監事館を代表して愛知県立芸術大学から、監査の結果、経理は正確に処理されていることを確認したとの報告があった。

平成 29 年度の決算報告について、報告のとおり承認された。

## 3 平成 30 年度役員館について

名古屋大学が会長館に推薦され、承認された。続いて、事務局から、他の役員館について説明があり、提案どおり承認された。

## 4 平成 30 年度事業計画（案）および予算（案）について

事務局から、平成 30 年度事業計画（案）および予算（案）について説明があり、協議の結果、提案どおり承認された。

## 5 平成 31 年度図書館職員基礎研修分担金の徴収について

事務局から、「図書館職員基礎研修」実施に関する分担金について説明があり、提案どおり承認された。

## 6 平成 31 年度総会当番館について

第 73 回（平成 31 年度）総会・研究集会の当番館として静岡文化芸術大学が選出された。

## VI 永年勤続者表彰

平成 30 年度の永年勤続者として 11 名が表彰された。

永年勤続表彰者：

田中 純子（常葉大学）  
 氏原 泰代（常葉大学）  
 鹿島 みづき（愛知淑徳大学）

## VII 閉会

### 【研究集会の部】

日 時：平成 30 年 8 月 24 日（金）

13:30～16:25

会 場：愛知大学

テーマ：「新たな知を創出する大学図書館の  
 取り組み」

◇講演：

「新たな学習交流拠点を目指して」

－神田外語大学附属図書館の取り組み－

神田外語大学教務部次長兼附属図書館課長

吉野 知義

◇講演：

「司書課程と連動した学生協働の取り組み」

武庫川女子大学附属図書館図書課長

川崎 安子

## 平成 29 年度決算報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

科 目	予算額 a	決算額 b	過△不足額 b - a	備 考
収入の部	円	円	円	
1. 前年度繰越金	2,261,880	2,261,880	0	
2. 会 費	705,500	705,500	0	平成 29 年度分：@8,500 × 83 館 = 705,500
3. 会 誌 売 上	72,500	72,500	0	62 号分：@2,500 × 29 部 = 72,500
4. 分 担 金	-	-	-	北陸 4 国立大学からの基礎研修分担金
5. 雑 収 入	335,000	385,000	50,000	協議会誌広告掲載料 (62 号) 385,000 @30,000 × 1 社 = 30,000 @25,000 × 1 社 = 25,000 @20,000 × 11 社 = 220,000 @10,000 × 11 社 = 110,000
6. 預 金 利 息	17	19	2	
計	3,374,897	3,424,899	50,002	

\* 前年度繰越金を除く平成 29 年度の収入額 1,163,019 円

科 目	予算額 c	決算額 d	過△不足額 c - d	備 考
支出の部	円	円	円	
1. 総会補助金	100,000	100,000	0	第 71 回総会 (豊橋技術科学大学)
2. 研究集会費	100,000	47,198	52,802	講師 (1 名) (加盟館外) 謝金等
3. 研 修 会 費	250,000	112,599	137,401	当番館経費 (名古屋大学), 講師謝金等
5. 会 誌 刊 行 費	480,000	428,868	51,132	62 号 190 部
6. 役員会経費	5,000	4,589	411	運営委員会, 監事会
7. 事 務 費	120,000	100,951	19,049	IC レコーダ等の事務用品等
8. 通 信 費	40,000	61,034	△ 21,034	会誌送付等郵便料金
9. 表 彰 記 念 費	100,000	108,998	△ 8,998	永年勤続表彰者 14 名の記念品 (ネーム印付きボールペン), 旅費 (事務局を除く) 等
10. 予 備 費	2,179,897	0	2,179,897	
11. 次年度繰越金	0	2,460,662	△ 2,460,662	
計	3,374,897	3,424,899	△ 50,002	

\* 次年度繰越金を除く平成 29 年度の支出額 964,237 円

平成 30 年 3 月 31 日締め  
 預金残高 2,450,119 円  
 現金残高 10,543 円  
 資産総額 2,460,662 円

会計監査 平成 30 年 6 月 7 日

愛知県立芸術大学  
中部大学

監査済み

## 平成 30 年度予算

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

科 目	前年度 決算額 a	本年度 予算額 b	前年度決算額 よりの増△減 b - a	備 考
収入の部	円	円	円	
1. 前年度繰越金	2,261,880	2,460,662	198,782	
2. 会 費	705,500	705,500	0	平成 30 年度分：@8,500 × 83 館 = 705,500
3. 会誌売上費	72,500	72,500	0	63 号分：@2,500 × 29 部 = 72,500
4. 分 担 金	-	-	-	基礎研修開催年度に限り北陸地区国立大学から徴収するが、少額のため平成 31 年度に徴収（第 70 回総会決定）
5. 雑 収 入	385,000	400,000	15,000	協議会誌広告掲載料 63 号分 (62 号分を含む)
6. 預 金 利 息	19	19	0	
計	3,424,899	3,638,681	213,782	

\* 前年度繰越金を除く本年度の収入見込み額 1,178,019 円

科 目	前年度 決算額 c	本年度 予算額 d	前年度決算額 よりの増△減 d - c	備 考
支出の部	円	円	円	
1. 総会補助金	100,000	100,000	0	第 72 回総会（愛知大学）
2. 研究集会費	47,198	100,000	52,802	講師（2 名）（加盟館外）謝金等
3. 研 修 会 費	112,599	250,000	137,401	当番館経費（名古屋女子大学）、 講師謝金等
4. 会誌刊行費	428,868	480,000	51,132	63 号 200 部
5. 役員会経費	4,589	5,000	411	運営委員会、監事会
6. 事 務 費	100,951	120,000	19,049	
7. 通 信 費	61,034	70,000	8,966	会誌送付等郵便料金
8. 表彰記念費	108,998	30,000	△ 78,998	永年勤続表彰者 3 名の記念品（ネーム印 付ボールペン）、旅費（事務局除く）等
9. 予 備 費	0	2,483,681	2,483,681	
10. 次年度繰越金	2,460,662	0	△ 2,460,662	
計	3,424,899	3,638,681	213,782	

\* 予備費を除く本年度の支出見込み額 1,155,000 円

### 静岡大学附属図書館浜松分館

〒432-8561 浜松市中区城北三丁目5-1

<http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

静岡大学は静岡キャンパスと浜松キャンパスの2キャンパスを有し、静岡キャンパスに附属図書館静岡本館、浜松キャンパスに同浜松分館を置く。浜松分館は2013～2014年に第一期、2016～2018年に第二期の改築工事を行い、2018年6月28日に晴れて全面開館を迎えた。

第一期工事では、キャンパス事務部と図書館を集約した「附属図書館分館・学生支援棟（S-Port）」が建設され、図書館エリアにおいてはアクティブ・ラーニングエリアおよび書庫を整備した。第一期工事の詳細については、本誌第60号（2015）を参照されたい。

第二期工事は、S-Portの西側に位置していた閲覧室棟を改築・改修し、第一期工事エリアと一体化した形で図書館エリアを完成した。全面開館後の総床面積は4,682㎡、座席数は501席である。

今回開館した第二期工事エリアは、開架図書閲覧室（1・2F）、開架雑誌閲覧室（3F）のほか、静かに集中して学習するための図書館機能・スペースを備え、第一期工事エリアとの機能分化をはかっている。主な設備を以下に紹介する。

#### 【読書テラス】

1階西側のデッキを読書スペースとし、緑に囲ま



読書テラス

れたリラックス空間として提供している。また、テラス設置のパーゴラやベンチは、災害時にはテントやかまどとして利用することができる。

#### 【新聞・新着雑誌コーナー】

1階北西側、キャンパスのメインストリートに面した部屋に、カフェを意識した什器を配置した。ハイテーブルや一人用ソファ等、気分に応じた場所で新聞・雑誌を閲覧できる。



新聞・新着雑誌コーナー

#### 【グループ学習室】

2階の第一期工事エリアと隣接する部分に2室を設置した。両室とも3～10人で利用でき、可動式の机・椅子、ホワイトボード、投影ディスプレイを備えている。使用日の2週間前からカウンターで予約申込が可能である。

#### 【個人ブース】

3階奥に4室を配置した。うち1室は車椅子の利用者を想定し、スライド式のドアと広めの室内空間を備えている。予約は当日中のみ可能であるが、開館1ヶ月後の前期試験期には、開館直後から予約希望の学生がカウンターを訪れていた。

6年にわたる工事が完了し、多彩な機能を備えた新図書館において、今後も多様化する学習・研究を積極的に支援していきたいと考える。

### 愛知教育大学附属図書館

〒 448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 番地

<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

愛知教育大学附属図書館は、昭和 45 年に岡崎分校と名古屋分校を刈谷地区に統合・移転した際に新築され、その後約 47 年間という長きにわたり利用されてきました。しかし、建物の老朽化や、昨今大学図書館に求められている機能の高度化に対応するため、平成 29 年 3 月から本学の緑豊かな学修環境を生かし、大学構成員だけでなく、地域の人々、高校生、保護者、卒業生などの交流や憩い場所となるよう「教育の森に佇む森の図書館」をイメージし、改修工事を行い、平成 29 年 10 月にリニューアルオープンしました。



【図書館外観】

改修内容は、3 階建てのうち、2 階は「動」のエリアとして、グループ学修エリア、メディアcommons、アイ♥スペース（多目的イベントスペース）などを設置し、学生たちの自由で実践的な学びを支援します。また、教員養成系大学ならではの特色を生かした ICT 機器が利用できる教室を再現した模擬授業ルームや、子どもたちへ絵本の読み聞かせができるキッズライブラリーを新たに設置しました。



【グループ学修エリア】

3 階は「静」のエリアとして、館内の開架書架を集約するとともに、サイレントルーム、研究室、自習エリアなどを整備し、静かな環境での読書や学修・研究の場を提供できるようにしました。

1 階は「知の貯蔵庫」としての閉架書架スペースとして、平成 26 年 3 月に約 36 万冊が収納可能な電動集密書架を整備したため、今回は改修していません。

なお、改修にあたり従前の図書館機能が低下しないよう、開架書架の図書冊数や座席数が大きく減少しないように工夫しました。

また、学内に愛知教育大学の特色や歴史・研究成果などを紹介するコーナーがなかったため、2 階に AUE インフォメーションギャラリーを設置するとともに、3 階に本学の歴史やそれにまつわる資料や、構内から出土した土器を展示する大学史資料室を設置しました。

今後の課題としては、利用者への学修・研究環境の提供だけでなく、学生が主体的に学修に取り組める仕掛けを考え、より進化した図書館にしていくことを考えています。



【キッズライブラリー ↑・模擬授業ルーム ↓】



## 施設紹介

### 名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

<http://www.grl.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/>

2017年11月1日、名古屋大学東山キャンパスに、ジェンダー・リサーチ・ライブラリ（GRL）が開館しました。

篤志家の寄付により建設されたGRLは、床面積840㎡、鉄骨造2階建て、最大4万冊を収蔵できる図書スペースと書庫のほか、閲覧室、展示コーナー、研究スペース、レクチャールーム、カフェ等を備えた研究活動施設です。

ジェンダーに関心のある方はもとより、どなたでも来館、利用いただくことができます。



図書室



外観

GRL創設を機に、公益財団法人東海ジェンダー研究所より、同研究所の蔵書に加えて同研究所顧問で名古屋経済大学名誉教授の水田珠枝氏から同研究所へ寄贈された蔵書（「水田珠枝文庫」）と、同研究所に縁のある方々からの寄贈図書、併せて約23,000冊とアーカイブの寄贈を受けました。

寄贈図書は、ウルストンクラフト（Mary Wollstonecraft）の『女性の権利の擁護』（1793年）、といった貴重書をはじめ、女性を取り巻く歴史、社会、教育、理論など幅広い分野の和書・洋書からなり、2018年8月現在、書誌データの登録作業が終了した約20,000冊が利用いただけます。

また、名古屋市の共同保育所関連資料（東海ジェンダー研究所編『資料集 名古屋における共同保育所運動：1960年代～1970年代を中心に』（日本評論社、2016年）のために蒐集された共同保育所運動の資料を整理したもの）、男女雇用機会均等法関連資料、アメリカ女性史関連資料、イギリス性差別禁止・雇用平等法関係資料、明治期の和装本教訓書なども所蔵しています。



GRLエントランス正面

GRLのエントランス正面の白壁には、フランス革命初期の1789年に採択された「フランス人権宣言」(左側青字部分)と、その2年後にオランブ・ドゥ・グージュ(Olympe de Gouges: 1748 - 1793年)が発表した「女性および女性市民のための権利宣言」(右側赤字部分)が描かれています。

フランスの国民議会が議決したいわゆる「フランス人権宣言」は、フランス革命の基本原則である国民主権、自由と平等などを謳い、世界に影響を与えました。

この「フランス人権宣言」における「人」とは男性をさすものでした。そこでグージュは、女性のための権利宣言を表したのです。第10条には、女性は処刑台にのぼる権利と同様に、演壇にのぼる権利をもたなければならないとあります。

この2つの権利宣言は、大学の講義でも説かれている内容であり、GRLには、図書はもちろんのこと、来訪者が女性の歴史をたどり、学びながら、社会システムや文化、思考様式をジェンダーの視点から問い直す工夫が施されています。

そうした女性の歴史をたどりながら、社会システムや文化、思考様式をジェンダーの視点から問い直していく学術的な営みは、男女共同参画を推進していく上でも不可欠です。

そこでGRLでは、ジェンダーに関する書籍、および資料を収集とともに、研究拠点として、ジェンダー学の研究成果を国内外に向けて発信していくための活動も行っていく予定です。

その第一弾として、2018年3月には、GRLと東海ジェンダー研究所との共催による開館記念講演会「女性史の過去と未来」を開催しました。

講師のハーバード大学ナンシー・F・コット教授は、アメリカ女性史を専門とする歴史学研究者で、2001年～2014年までハーバード大学ラドクリフ研究所所属シュレジンガー図書館(アメリカ女性史関連の資料を蒐集する図書館でジェンダー研究施設)の館長でもありました。

コット教授による講演会と、3つのセミナー(「図書館とジェンダー」、「結婚と家族制度」、「セクシュアリティとジェンダー」)には、学内外から多くの参加があり、研究者同士の交流の機会とも

なりました。

1月にはGRLを会場に、名古屋大学人文学研究科附属「アジアの中の日本文化」研究センター(JACRC・当時)主催の国際シンポジウム「1930年前後の文化生産とジェンダー」も開催され、米国、台湾、韓国の研究者が活発な議論を展開するだけでなく、全館を利用した展示も同時開催し、議論のさらなる深化に繋げた点は、研究活動施設としてのGRLの特性を発揮した企画といえます。



展示「『女人芸術』という回路」

こうした講演やシンポジウムを通じて、ジェンダー学を専攻する、あるいはジェンダー学に興味のある学生や一般の方々にとっても、GRLが出会いと対話、議論の場となることを願っています。



1階カフェを会場とした懇親会の模様

## 会 則 等

### 東海地区大学図書館協議会会則

(名 称)

第1条 本会は、東海地区大学図書館協議会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、東海地区大学図書館の発展を図ると共に、図書館員の教養と技術の向上及び相互の親睦をはかることを目的とする。

(会 員)

第3条 本会は、前条の目的に賛同する東海地区（静岡、愛知、岐阜、三重）の国立、公立、私立の大学図書館その他これに準ずる図書館を以て組織する。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達するために、次の事業を行う。

- 一 会員相互間の連絡提携
- 二 図書及び図書館に関する研究会、講習会、  
展示会等の開催並びに後援
- 三 図書館運営に関する相談、指導
- 四 機関誌の発行
- 五 その他必要と認める事業

(会 長)

第5条 本会に会長を置く。  
2 総会において会長館を選出し、その会長館の図書館長が会長となる。  
3 会長の任期は、2年とする。但し、重任を妨げない。

(委員会)

第6条 本会に運営委員会及び機関誌編集委員会を置く。  
2 委員会に関する事項は、別に定める。

(総 会)

第7条 会長は、毎年一回総会を招集する。  
2 会場は、加盟館の輪番とする。

第8条 会長館は、協議事項（議題及び承合事項）をとりまとめ、審議運行の手続きを計る。

第9条 総会の票決権は、一館一票とし議決は出席館の過半数の賛成を要する。

(会 計)

第10条 本会の経費は、会費その他の収入をもってあてる。

2 会員の会費は、年額8,500円とする。

第11条 本会の会計事務を監査するため、監事を置く。

2 総会において監事館を選出し、その監事館の図書館長が監事となる。

3 監事の任期は2年とする。但し、重任を妨げない。

第12条 本会の予算は、毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受けたのち、次の総会において承認を得るものとする。

第13条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(事務局)

第14条 会長館に、本会の事務局を置く。

2 事務局に、事務局長及び職員を置く。

3 会長館の事務部長、又はこれに準ずる者が事務局長となる。

(会則の変更)

第15条 この会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

(附 則)

本会則は、昭和25年5月1日から施行する。

(附 則)

この改正は、昭和50年7月23日より施行する。

(附 則)

この改正は、平成27年8月21日より施行する。

## 東海地区大学図書館協議会

### 運営委員会規程

第1条 運営委員会は、本会の運営に関する事項を審議する。

第2条 運営委員会の構成は、国立大3、公立大3、私立大4、(短大1を含む)とする。

第3条 運営委員は、総会において選出する。

2 運営委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 前項の任期が満了しても、後任者が就任するまでは、なお、その任にあるものとする。

第4条 運営委員会に、委員長をおく。

2 運営委員長は、会長がこれに当たる。

3 運営委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

第5条 運営委員会に、必要に応じて小委員会を置くことができる。

第6条 運営委員会の事務は、事務局内において行う。

附 則

この改正は平成12年7月19日から施行する。

## 東海地区大学図書館協議会

### 機関誌編集委員会規程

1 機関誌の発行について、編集委員会を設ける。

2 編集委員は、会長の指名による。

3 編集委員会に、委員長を置く。

4 編集委員長は、会長がこれにあたる。

5 編集委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

6 編集委員会の事務は、事務局内において行う。

## 東海地区大学図書館協議会

### 研修企画小委員会内規

平成12年10月6日

運営委員会

(目的)

第1 この内規は、東海地区大学図書館協議会(以下「協議会」という。)の研修に関し、必要な

事項を審議するため、運営委員会の下に研修企画小委員会(以下「小委員会」という。)を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

(審議事項)

第2 小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一 協議会が行う研修の企画に関すること

二 その他研修に関し、必要な事項

(小委員会の構成)

第3 小委員会は、次に掲げる委員館をもって構成する。

一 協議会会長館

二 国立、公立、私立の運営委員館から各1館

三 研修会会場館

2 小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

(小委員会の庶務)

第4 小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

附 則

この内規は、平成12年10月6日から施行する。

## 東海地区大学図書館協議会

### ホームページ小委員会内規

平成12年10月6日

運営委員会

(目的)

第1 この内規は、東海地区大学図書館協議会(以下「協議会」という。)のホームページ(以下「ホームページ」という。)に関し、必要な事項を審議するため、運営委員会の下にホームページ小委員会(以下「小委員会」という。)を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

(審議事項等)

第2 小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一 ホームページの運用・管理に関すること。

二 ホームページの企画・編集に関すること。

三 その他ホームページに関し、必要な事項。

(小委員会の構成)

第3 小委員会は次に掲げる委員館をもって構成する。

- 一 協議会会長館
  - 二 国立、公立、私立の運営委員館から各1館
- 2 小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

(小委員会の庶務)

第4 小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

#### 附 則

この内規は、平成12年10月6日から施行する。

### 東海地区大学図書館協議会ホームページ による情報発信に関わる申し合わせ

平成12年10月6日  
運営委員会

#### 1 情報発信の範囲

ホームページを通じて発信する情報は、次の各号に該当するものとする。

- ①協議会事業に関する情報
- ②協議会加盟館に関する情報
- ③その他ホームページ小委員会（以下「小委員会」という。）が必要と認めた情報

#### 2 情報発信できる者の範囲

ホームページを通じて情報発信できる者は協議会加盟館とする。

#### 3 情報発信の手続き

- ①ホームページを通じて情報発信しようとする者は、協議会事務局宛にHTML形式の文書をメールで送付するものとする。
- ②加盟館から送付された文書の内容は原則として変更しない。
- ③ホームページに掲載する文書の登録及び削除の決定は、小委員会が行う。但し、疑義があるときは、小委員会は運営委員会委員長と協議する。
- ④ホームページを通じて情報公開している者で、公開する情報の変更又は停止等の事由が生じた時は、速やかに協議会事務局に連絡する。
- ⑤小委員会は公開されたホームページの情報が不相当と判断した場合は、そのファイルを削

除し、リンクを切断することができるものとする。

#### 4 ホームページ

当分の間、ホームページは名古屋大学附属図書館内のサーバーに置く。

### 表彰規程

第1条 東海地区大学図書館協議会会則第4条第5号に基づき加盟館の職員に対して行う表彰はこの規程の定めるところによる。

第2条 毎年総会の前日までに通算20年図書館に在職する者。

第3条 この規程による表彰は加盟館長の推薦により総会において行う。

第4条 表彰者には記念品及び感謝状を贈呈する。

第5条 この規程の改正は総会の議決によって行う。

#### 附 則

この規程は、昭和44年10月29日から実施する。

### 表彰者推薦に関する申合せ

(昭和53年9月4日)

東海地区大学図書館協議会の加盟館に在職する者のうち、つぎの各項のいずれかに該当する者を推薦することとする。

- (1) 毎年総会の前日までに通算20年以上加盟館に在職する者。
- (2) 毎年総会の前日までに通算25年以上図書館に在職し、かつ3年以上加盟館に在職する者。  
なお、(1)、(2)のいずれについても事務補佐員としての在職期間も加算するものとする。

### 「図書館職員基礎研修」実施に関する 分担金についての申合せ

(平成27年8月21日)

「図書館職員基礎研修」(以下、「基礎研修」という。)については、平成25年度東海地区大学図

書館協議会総会において、東海北陸地区国立大学図書館協会と共催することを決定した。これに伴う分担金の取り扱いについて以下のとおり定める。

1. 東海北陸地区国立大学図書館協会加盟館のうち、北陸地区に所在する4大学（以下、「北陸地区4国立大学」という。）から、基礎研修実施年度に限り、分担金を徴収することとする。
2. 分担金の金額は、前回の基礎研修開催に要した経費を、東海地区大学図書館協議会加盟館及び北陸地区4国立大学の合計数で除した値を基礎にして、その都度東海地区大学図書館協議会運営委員会で定める。

## 総会当番館一覧

### 東海地区大学図書館協議会 総会当番館一覧

回	年月	館名	県別	回	年月	館名	県別
1	昭 25. 6	名古屋大学	愛知	39	60.10	豊橋技術科学大学	愛知
2	26. 6	金城学院大学	〃	40	61. 6	中京大学	〃
3	26.11	三重大学	三重	41	62. 6	愛知県立大学	〃
4	27. 5	愛知学芸大学	愛知	42	63. 6	愛知学院大学	〃
5	27.10	名古屋工業大学	〃	43	平成元. 6	愛知教育大学	〃
6	28. 5	三重県立大学	三重	44	2. 6	愛知大学	〃
7	28. 8	名古屋市立大学	愛知	45	3. 7	静岡県立大学	静岡
8	29.10	静岡大学	静岡	46	4. 6	中部大学	愛知
9	30. 9	岐阜大学	岐阜	47	5. 6	岐阜大学	岐阜
10	31. 5	愛知大学	愛知	48	6. 7	名古屋学院大学	愛知
11	32.10	日本大学（三島）	静岡	49	7. 6	岐阜薬科大学	岐阜
12	33. 6	名城大学	愛知	50	8. 7	愛知大学	愛知
13	34. 9	岐阜薬科大学	岐阜	51	9. 7	浜松医科大学	静岡
14	35.11	名古屋大学	愛知	52	10. 7	日本福祉大学	愛知
15	36.11	南山大学	〃	53	11. 7	愛知県立看護大学	〃
16	37. 6	岐阜県立医科大学	岐阜	54	12. 7	愛知工業大学	〃
17	38. 6	名古屋工業大学	愛知	55	13. 7	三重大学	三重
18	39.10	愛知県立大学	〃	56	14. 7	金城学院大学	愛知
19	40.10	日本福祉大学	〃	57	15. 6	岐阜県立看護大学	岐阜
20	41.10	中京大学	〃	58	16. 7	南山大学	愛知
21	42.11	岐阜薬科大学	岐阜	59	17. 7	名古屋工業大学	〃
22	43.11	愛知学院大学	愛知	60	18. 7	名城大学	〃
23	44.10	三重大学	三重	61	19. 8	愛知県立芸術大学	〃
24	45. 9	同朋大学	愛知	62	20. 8	愛知淑徳大学	〃
25	46.10	名古屋市立大学	〃	63	21. 8	名古屋大学	〃
26	47.10	中部工業大学	〃	64	22. 8	名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学	〃
27	48.10	愛知教育大学	〃	65	23. 8	名古屋市立大学	〃
28	49.10	大同工業大学	〃	66	24. 8	中京大学	〃
29	50. 7	愛知県立芸術大学	〃	67	25. 8	静岡大学	静岡
30	51. 6	市邨学園女子短期大学	〃	68	26. 8	中部大学	愛知
31	52. 6	静岡大学	静岡	69	27. 8	愛知県立大学	〃
32	53. 9	愛知工業大学	愛知	70	28. 8	名古屋学院大学	〃
33	54. 9	静岡女子大学	静岡	71	29. 8	豊橋技術科学大学	〃
34	55. 9	名古屋学院大学	愛知	72	30. 8	愛知大学	〃
35	56.10	浜松医科大学	静岡	73	31. 8	静岡文化芸術大学（予定）	静岡
36	57. 9	名古屋女子大学	愛知	74	32. 8	日本福祉大学（予定）	愛知
37	58.10	静岡薬科大学	静岡	75	33. 8	愛知教育大学（予定）	〃
38	59. 9	南山大学	愛知	76	34. 8	愛知工業大学（予定）	〃

国立→私立→公立→私立の順による

## 加盟館一覧

### 東海地区大学図書館協議会加盟館一覧

平成 30 年 12 月 1 日現在

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
(83)						
<input type="checkbox"/> ■ 岐阜県 ■ <input type="checkbox"/> (14)						
朝日大学図書館	学校法人 朝日大学	板谷 雄二	〒 501-0296	瑞穂市穂積 1851-1	(058) 329-1051	(058) 329-0021
岐阜大学図書館	国立大学法人	野々村修一	〒 501-1193	岐阜市柳戸 1-1	(058) 293-2184	(058) 293-2194
岐阜医療科学大学 図書館	学校法人 神野学園	中村 浩二	〒 501-3892	関門市平賀字長峰 795-1	(0575) 22-9401	(0575) 46-9570
岐阜経済大学図書館	学校法人 大垣総合学園	高橋 利行	〒 503-8550	大垣市北方町 5-50	(0584) 77-3527	(0584) 77-3528
岐阜県立看護大学 図書館	公立大学法人 岐阜県立看護大学	会田 敬志	〒 501-6295	羽島市江吉良町 3047-1	(058) 397-2304	(058) 397-2304
岐阜市立女子短期大学 附属図書館		川上 新二	〒 501-0192	岐阜市一日市場北町 7-1	(058) 296-3123	(058) 296-3130
岐阜聖徳学園大学 図書館	学校法人 聖徳学園	大塚 容子	〒 501-6194	岐阜市柳津町高桑西 1-1	(058) 279-6416	(058) 279-1242
岐阜女子大学図書館	学校法人 杉山女子学園	生田 孝至	〒 501-2592	岐阜市太郎丸 80	(058) 214-9317	(058) 229-2222
岐阜保健短期大学 図書館	学校法人 豊田学園	山本 澄子	〒 500-8281	岐阜市東鶉 2-92	(058) 274-5001	(058) 274-5260
岐阜薬科大学附属 図書館		伊藤 彰近	〒 502-8585	岐阜市三田洞東 5 丁目 6-1	(058) 237-3931	(058) 237-3631
情報科学芸術大学院 大学附属図書館		前田真二郎	〒 503-0006	大垣市加賀野 4-1-7	(0584) 75-6803	(0584) 75-6803
中京学院大学 図書メディアセンター	学校法人 安達学園	眞部 孝幸	〒 509-6192	瑞浪市土岐町 2216	(0572) 68-4584	(0572) 68-4568
中部学院大学 附属図書館	学校法人 岐阜済美学院	川瀬 邦臣	〒 501-3993	関市桐ヶ丘二丁目 1 番地	(0575) 24-2243	(0575) 24-2434
東海学院大学・東海学 院大学短期大学部附属 図書館	学校法人 神谷学園	アンドリュース・デューア	〒 504-8511	各務原市那加桐野町 5-68	(058) 389-2969	(058) 371-9851
<input type="checkbox"/> ■ 静岡県 ■ <input type="checkbox"/> (12)						
静岡大学附属図書館	国立大学法人	澤田 均	〒 422-8529	静岡市駿河区大谷 836	(054) 238-4474	(054) 238-5408
静岡県立大学 附属図書館	静岡県公立 大学法人	小幡 壯	〒 422-8526	静岡市駿河区谷田 52-1	(054) 264-5801	(054) 264-5899
静岡県立大学短期大学部 附属図書館・静岡県立大 学附属図書館小鹿図書館	静岡県公立 大学法人	小林佐知子 小幡 壯	〒 422-8021	静岡市駿河区小鹿 2-2-1	(054) 202-2617	(054) 202-2620
静岡産業大学図書館	学校法人 新静岡学園	浅羽 浩	〒 438-0043	磐田市大原 1572-1	(0538) 36-8844	(0538) 36-3580
静岡文化芸術大学 図書館・情報センター	公立大学法人 静岡文化芸術大学	的場ひろし	〒 430-8533	浜松市中区中央二丁目 1 番 1 号	(053) 457-6124	(053) 457-6125
静岡理工科大学 附属図書館	学校法人 静岡理工科大学	常吉 俊宏	〒 437-8555	袋井市豊沢 2200-2	(0538) 45-0231	(0538) 45-0230
聖隷クリストファー 大学図書館	学校法人 聖隷学園	荒川 靖子	〒 433-8558	浜松市北区三方原町 3453	(053) 439-1416	(053) 414-1146
東海大学付属図書館 清水図書館	学校法人 東海大学	川崎 一平	〒 424-8610	静岡市清水区折戸 3-20-1	(054) 334-0414	(054) 334-0862

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
東海大学短期大学部 図書館	学校法人 東海大学	中上 健二	〒420-8511	静岡市葵区宮前町101	(054)261-9527	(054)261-6865
常葉大学附属図書館	学校法人 常葉大学	大川 信子	〒422-8581	静岡市駿河区弥生町6-1	(054)297-6136	(054)297-6137
日本大学図書館 国際関係学部分館	学校法人 日本大学	濱屋 雅軌	〒411-8555	三島市文教町2丁目31-145	(055)980-0806	(055)988-7875
浜松医科大学 附属図書館	国立大学法人	浦野 哲盟	〒431-3192	浜松市東区半田山一丁目20-1	(053)435-2169	(053)435-5140

■ 愛知県 ■ (50)

愛知大学図書館	学校法人 愛知大学	塩山 正純	〒453-8777	名古屋市市中村区平池町4丁目 60番6	(052)564-6115	(052)564-6215
愛知医科大学 総合学術情報センター	学校法人 愛知医科大学	中野 隆	〒480-1195	長久手市岩作雁又1-1	(0561)62-3311 (代表)	(0561)62-3348
愛知学院大学 図書館情報センター	学校法人 愛知学院	二宮 克美	〒470-0195	日進市岩崎町阿良池12	(0561)73-1111 (代表)	(0561)73-7810
愛知学泉大学図書館	学校法人 安城学園	浦田 葉子	〒471-8532	豊田市大池町汐取1	(0565)35-7097	(0565)35-1003
愛知教育大学 附属図書館	国立大学法人	中田 敏夫	〒448-8542	刈谷市井ヶ谷町広沢1	(0566)26-2683	(0566)26-2680
愛知県立大学学術研究 情報センター図書館	愛知県公立 大学法人	梶原 克教	〒480-1198	長久手市茨ヶ廻間1522-3	(0561)76-8841	(0561)64-1104
愛知県立芸術大学芸術 情報センター図書館	愛知県公立 大学法人	三宮 敦生	〒480-1194	長久手市岩作三ヶ峯1-114	(0561)76-2963	(0561)62-0244
愛知工科大学 附属図書館	学校法人 電波学園	森 勝行	〒443-0047	蒲郡市西迫町馬乗50-2	(0533)68-1135	(0533)68-0352
愛知工業大学 附属図書館	学校法人 名古屋電気学園	村瀬 洋	〒470-0392	豊田市八草町八千草1247	(0565)48-8121	(0565)48-2908
愛知産業大学・ 短期大学図書館	学校法人 愛知産業大学	伊藤万知子	〒444-0005	岡崎市岡町字原山12-5	(0564)48-4591	(0564)48-5113
愛知淑徳大学図書館	学校法人 愛知淑徳学園	平林美都子	〒480-1197	長久手市片平2-9	(0561)62-4111 (代表)	(0561)64-0310
愛知東邦大学 学術情報センター	学校法人 東邦学園	高木 靖彦	〒465-8515	名古屋市名東区平和が丘3-11	(052)782-1243	(052)782-1097
愛知文教大学 附属図書館	学校法人 足立学園	富田 健弘	〒485-8565	小牧市大草5969-3	(0568)78-2211	(0568)78-2240
桜花学園大学図書館	学校法人 桜花学園	森田 優己	〒470-1193	豊明市栄町武侍48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
金城学院大学図書館	学校法人 金城学院	出町 克人	〒463-8521	名古屋市守山区大森2-1723	(052)798-0180	(052)768-1066
至学館大学附属図書館	学校法人 至学館	飯本 雄二	〒474-8651	大府市横根町名高山55	(0562)46-1239	(0562)46-3860
自然科学研究機構 岡崎情報図書館	大学共同利用 機関法人	山本 正幸	〒444-8585	岡崎市明大寺町西郷中38	(0564)55-7191	(0564)55-7199
修文大学附属図書館	学校法人 修文学院	越川 卓	〒491-0938	一宮市日光町6番地	(0586)45-2101	(0586)45-4410
椋山女学園大学図書館	学校法人 椋山女学園	福永 智子	〒464-8662	名古屋市千種区星が丘元町17-3	(052)781-6452	(052)781-3094
星城大学図書館	学校法人 名古屋石田学園	雨宮 康樹	〒476-8588	東海市富貴ノ台2-172	(052)601-6000 (代表)	(052)601-6137
瀬木学園図書館	学校法人 瀬木学園	幸田 政次	〒467-0867	名古屋市瑞穂区春敲町2-13	(052)882-3152	(052)882-3170
大同大学図書館	学校法人 大同学園	坂倉 守昭	〒457-8530	名古屋市南区滝春町10-3	(052)612-6873	(052)612-6108
中京大学図書館	学校法人 梅村学園	佐藤 隆	〒466-8666	名古屋市昭和区八事本町101-2	(052)835-7157	(052)835-1249

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
中部大学 附属三浦記念図書館	学校法人 中部大学	岡崎 明彦	〒487-8501	春日井市松本町1200	(0568)51-4317	(0568)52-1510
同朋大学・ 名古屋音楽大学図書館	学校法人 同朋学園	大岡 訓子	〒453-8540	名古屋市中村区稲葉地町7-1	(052)411-1951	(052)411-1120
東海学園大学図書館	学校法人 東海学園	青山 広	〒468-8514	名古屋市中白区中平2丁目901	(052)801-1528	(052)804-1192
豊田工業大学 総合情報センター	学校法人 トヨタ学園	大石 泰丈	〒468-8511	名古屋市中白区久方2-12-1	(052)809-1743	(052)809-1744
豊田工業高等専門学校 図書館	独立行政法人国立 高等専門学校機構	米澤 佳己	〒471-8525	豊田市栄生町2-1	(0565)36-5904	(0565)36-5920
豊橋技術科学大学 附属図書館	国立大学法人	大貝 彰	〒441-8580	豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1	(0532)44-6562	(0532)44-6566
豊橋創造大学 附属図書館	学校法人 藤ノ花学園	佐藤 勝尚	〒440-8511	豊橋市牛川町松下20-1	(050)2017-2105	(050)2017-2115
名古屋大学附属図書館	国立大学法人	森 仁志	〒464-8601	名古屋市中種区不老町	(052)789-3666	(052)789-3693
名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学図書館	学校法人 中西学園	浅野 妙子	〒470-0188	日進市岩崎町竹ノ山57	(0561)75-1726	(0561)75-1727
名古屋学院大学 学術情報センター	学校法人 名古屋学院大学	伊藤 昭浩	〒456-8612	名古屋市熱田区熱田西町1-25	(052)678-4092	(052)682-6826
名古屋経済大学図書館	学校法人 市邨学園	田口 義明	〒484-0000	犬山市字樋池61-22	(0568)67-3798	(0568)67-9321
名古屋芸術大学 附属図書館	学校法人 名古屋自由学院	田中 範康	〒481-8503	北名古屋市熊之庄古井281	(0568)26-3121	(0568)24-0393
名古屋工業大学 附属図書館	国立大学法人	内匠 逸	〒466-8555	名古屋市昭和区御器所町	(052)735-5098	(052)735-5102
名古屋産業大学・名古屋 経営短期大学図書館	学校法人 菊武学園	菅井 径世	〒488-8711	尾張旭市新居町山の田3255-5	(0561)55-3081	(0561)55-5985
名古屋商科大学 中央情報センター	学校法人 栗本学園	浅野 一明	〒470-0193	日進市米野木町三ヶ峯4-4	(0561)73-2111 (代表)	(0561)73-1202
名古屋女子大学 学術情報センター	学校法人 越原学園	越原洋二郎	〒467-8610	名古屋市瑞穂区汐路町3-40	(052)852-9768	(052)852-1830
名古屋市立大学 総合情報センター	公立大学法人 名古屋市立大学	三澤 哲也	〒467-8501	名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	(052)872-5795	(052)872-5781
名古屋造形大学図書館	学校法人 同朋学園	大岡 訓子	〒485-8563	小牧市大字大草字年上坂6004	(0568)79-1255	(0568)47-0361
名古屋短期大学図書館	学校法人 桜花学園	小川 雄二	〒470-1193	豊明市栄町武待48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
名古屋文理大学 図書情報センター	学校法人 滝川学園	山住 富也	〒492-8520	稲沢市稲沢町前田365	(0587)23-2400 (代表)	(0587)21-2844
名古屋柳城短期大学 図書館	学校法人 柳城学院	村田 康常	〒466-0034	名古屋市昭和区明月町2-54	(052)841-2635	(052)841-2697
南山大学図書館	学校法人 南山学園	山田 望	〒466-8673	名古屋市昭和区山里町18	(052)832-3163	(052)832-3462
日本赤十字豊田看護大学 学術情報センター・図書館	学校法人 日本赤十字学園		〒471-8565	豊田市白山町七曲12-33	(0565)36-5119	(0565)37-7897
日本福祉大学 付属図書館	学校法人 日本福祉大学	亀谷 和史	〒470-3295	知多郡美浜町大字奥田字会下前 35番6	(0569)87-2325	(0569)87-2795
人間環境大学 附属図書館	学校法人 河原学園	岡 良和	〒444-3505	岡崎市本宿町字上三本松6-2	(0564)48-7815	(0564)48-7815
藤田医科大学図書館	学校法人 藤田学園	橋本 修二	〒470-1192	豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98	(0562)93-2420	(0562)93-2649
名城大学附属図書館	学校法人 名城大学	山本 忠弘	〒468-8502	名古屋市中白区塩釜口1-501	(052)832-1151 (代表)	(052)833-6046

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 三重県 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> (7)						
皇學館大学附属図書館	学校法人 皇學館	菅野 覚明	〒 516-8555	伊勢市神田久志本町 1704	(0596) 22-6322	(0596) 22-6329
鈴鹿医療科学大学 附属図書館	学校法人 鈴鹿医療科学大学	藤原 芳朗	〒 510-0293	鈴鹿市岸岡町 1001-1	(059) 340-0337	(059) 383-9915
鈴鹿大学附属図書館	学校法人 享栄学園	石川 拓次	〒 510-0298	鈴鹿市郡山町 663-222	(059) 372-3950	(059) 372-2827
鈴鹿大学短期大学部 附属図書館	学校法人 享栄学園	石川 拓次	〒 510-0298	鈴鹿市郡山町 663-222	(059) 372-3950	(059) 372-3903
三重大学附属図書館	国立大学法人	加納 哲	〒 514-8507	津市栗真町屋町 1577	(059) 231-9083	(059) 231-9086
三重県立看護大学 メディアコミュニケーションセンター 附属図書館	公立大学法人 三重県立看護大学	小池 敦	〒 514-0116	津市夢が丘 1-1-1	(059) 233-5608	(059) 233-5668
津市立三重短期大学 附属図書館		石原 洋介	〒 514-0112	津市一身田中野 157	(059) 232-2341	(059) 232-9647

## 役員館一覧

### 東海地区大学図書館協議会役員館一覧（平成16年度～平成31年度）

年度	総会 当番館	研修会 会場館	会長館	運営委員会	機関誌編集 委員会	監事会	研修企画 小委員会	ホームページ 小委員会
				会長 国立3、公立3、私立4（短大1を含む） オブザーバ：総会当番館	会長 編集委員は会長 の指名	総会で選出。監事 館の図書館長が監 事となる	会長館 国立、公立、私 立の運営委員館 から各1館 研修会会場館	会長館 国立、公立、私 立の運営委員館 から各1館
平成 16 年度	南山大学	名古屋 大学 岐阜大学	名古屋 大学	浜松医科大学 三重大学 名古屋工業大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 ／静岡県立大学短期大学部（H17）	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 金城学院大学	名古屋大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 中京大学 研修会会場館	
平成 17 年度	名古屋 工業大学	中京大学 名古屋 大学		南山大学 中京大学 東海女子大学 名古屋経済大学短期大学部				
平成 18 年度	名城大学	岐阜県立 看護大学 名古屋 大学	名古屋 大学	静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知教育大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 静岡県立大学短期大学部（H18）	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 南山大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 中部大学 研修会会場館	名古屋大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 中京女子大学
平成 19 年度	愛知県立 芸術大学	名古屋 大学 中部大学		／三重短期大学（H19） 名城大学 中部大学 中京女子大学 名古屋柳城短期大学				
平成 20 年度	愛知淑徳 大学	浜松医科 大学 名古屋 大学	名古屋 大学	岐阜大学 浜松医科大学 三重大学 愛知県立看護大学（H20）／愛知県立大学（H21）	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 同朋学園大学	名古屋大学 三重大学 名古屋市立大学 豊田工業大学
平成 21 年度	名古屋 大学	同朋学園 大学 名古屋 大学		名古屋市立大学 津市立三重短期大学 愛知淑徳大学 同朋学園大学 豊田工業大学 鈴鹿短期大学				
平成 22 年度	名古屋外 国語大学 ・名古屋 学芸大学	静岡県立 大学 名古屋 大学	名古屋 大学	名古屋工業大学 静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 豊橋創造大学 名古屋学院大学 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 愛知淑徳大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 豊橋創造大学 静岡県立大学	名古屋大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 名古屋学院大学
平成 23 年度	名古屋 市立大学	豊橋創造 大学 名古屋 大学						
平成 24 年度	中京大学	三重大学 名古屋 大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 浜松医科大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 静岡県立短期大学部 中京大学 名古屋経済大学 名古屋芸術大学 名古屋柳城短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名古屋外国語大学 名古屋学芸大学	名古屋大学 岐阜大学 愛知県立大学 名古屋経済大学 三重大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 名古屋芸術大学
平成 25 年度	静岡大学	名古屋経 済大学 名古屋 大学						
平成 26 年度	中部大学	愛知県立 芸術大学 名古屋 大学	名古屋 大学	静岡大学 名古屋工業大学 三重大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 津市立三重短期大学 中部大学 名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 名古屋商科大学 名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	岐阜薬科大学 中京大学	名古屋大学 静岡大学 愛知県立大学 名古屋外国語大学 名古屋学芸大学 愛知県立芸術大学	名古屋大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 名古屋商科大学
平成 27 年度	愛知県立 大学	名古屋外 国語大学 ・名古屋 学芸大学 名古屋 大学						
平成 28 年度	名古屋 学院大学	名古屋 工業大学 名古屋 大学	名古屋 大学	岐阜大学 愛知教育大学 豊橋技術科学大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 名古屋学院大学 南山大学 同朋大学・名古屋造形大学 桜花学園大学・名古屋短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 中部大学	名古屋大学 愛知教育大学 愛知県立大学 南山大学 名古屋工業大学	名古屋大学 愛知教育大学 名古屋市立大学 同朋大学・名古屋造形大学
平成 29 年度	豊橋技術 科学大学	名古屋 大学						

年度	総 会 当番館	研修会 会場館	会長館	運営委員会	機関誌編集 委員会	監事会	研修企画 小委員会	ホームページ 小委員会
				会長 国立3, 公立3, 私立4 (短大1を含む) オブザーバ: 総会当番館	会長 編集委員は会長の 指名	総会で選出, 監事 館の図書館長が監 事となる	会長館 国立, 公立, 私 立の運営委員館 から各1館 研修会会場館	会長館 国立, 公立, 私 立の運営委員館 から各1館
平成 30 年度	愛知大学	名古屋 女子大学	名古屋 大学	浜松医科大学 三重大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 静岡県立大学短期大学部	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知県立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名古屋学院大学	名古屋大学 浜松医科大学 愛知県立大学 愛知大学 名古屋女子大学	名古屋大学 三重大学 名古屋市立大学 日本福祉大学
平成 31 年度	静岡文化 芸術大学	名古屋 大学		愛知大学 名古屋女子大学 日本福祉大学 岐阜保健短期大学			名古屋大学 浜松医科大学 愛知県立大学 愛知大学	

## 研修会一覧

### 東海地区大学図書館協議会研修会一覧（平成元年度～平成29年度）

年度	年月日	会場	演題	講師	所属
元	元.12.5	名城大学	学術情報サービスの展開と大学図書館	門條 司	化学情報協会
			アダム・スミスの蔵書をめぐって	水田 洋	名城大学
	2.1.31	名古屋大学	大学図書館の未来像	丸山昭二郎	鶴見大学
2	2.11.29	名古屋大学	Collection building について	川原 和子	三重大学
			大学図書館とニュー・メディア	橋爪 宏達	学術情報センター
	3.1.30	大同工業大学	『経済学文献季報』のデータベース化について－KEIS から KEIS II へ 私の日本の古典文献とのつきあい	山内 隆文 朝倉 治彦	名古屋学院大学 四日市大学
3	3.11.8	名古屋学院大	ドイツ及び英国の図書館事情	牧村 正史	名古屋大学
			江戸時代の出版	長島 弘明	名古屋大学
	4.1.17	愛知県図書館	目録システムにおけるハイパーテキストの適用可能性 新図書館概要説明及び見学	石塚 英弘 鈴木 康之	図書館情報大学 愛知県図書館
4	4.10.21	南山大学	慶應義塾大学の新しい試み－マルチメディアの統合－	原田 悟	慶應義塾大学
			図書館の施設計画に関連して	加藤 彰一	名古屋大学
	5.3.19	名古屋大学	カリフォルニア大学バークレー校の図書館システム 電子情報サービスの新しい展開	棚橋 章 寺村 謙一	名古屋大学 丸善㈱
5	6.1.26	施設見学会：けいはんなインフォザール			
	6.3.23	愛知医科大学	シーボルトと中京の学者たち 大学図書館におけるコレクション形成・管理の意義と問題点	武内 博 三浦 逸雄	東京学芸大学 東京大学
6	6.12.6	愛知学院大学	アメリカ図書館最新事情	渡辺 和代 川瀬 正幸	名古屋アメリカン センター 名古屋大学
			地域・館種を越えた図書館サービス－すべての図書館をすべての利用者に－	雨森 弘行	三重県立図書館
	7.2.22	施設見学会：三重県図書館			
7	7.10.27	名古屋大学	鯨と捕鯨の文化史	森田 勝昭	甲南女子短期大学部
			研究図書館としての電子図書館の事例－機能と運営－	渡辺 博	奈良先端科学技術 大学院大学
	7.12.7	愛知工業大学	シンポジウム：利用者教育の在り方－方法と問題点－	光斎 重治 高橋 一郎 四谷あさみ 堀 茂 金子 豊	中部大学 愛知県立大学 愛知淑徳大学 名古屋大学 名古屋大学
8	8.10.24	名古屋大学	インターネット、イントラネットを前提とした図書館情報サービスの将来	後藤 邦夫	南山大学
			電子図書館の諸相：US Berkeley Digital Library Project と Ariadne97	谷口 敏夫	光華女子大学
	8.12.4	愛知淑徳大学	シンポジウム：NDC 新版9版について	石山 洋 万波 涼子 中井えり子 酒井 信	東海大学 名古屋市立大学 名古屋大学 名城大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
9	9.10.30	名古屋大学	英国大学図書館における電子情報サービスの進展	尾城 孝一	東京工業大学
			フランス国立図書館 BNF	篠田知和基	名古屋大学
9	9.12.10	朝日大学	講演 歌うコンピュータ・描くコンピュータ・マルチメディア時代への布石-	板谷 雄二	朝日大学
			フォーラム：マルチメディアと電子図書館-図書館機能におけるホームページ-	津田 明美 林 哲也 鈴木 康生 三浦 基	愛知工業大学 浜松医科大学 名古屋大学 南山大学
10	10.12.5	名古屋大学	テーマ：電子ジャーナルの”いま”と”こんご” 講演 デジタルメディアの現状と今後	逸村 裕	愛知淑徳大学
			電子ジャーナルの事例報告 EES, Science Direct FirstSearch, FirstSearch ECO Journals@ovid, HighWire Press	エルゼビア 紀伊國屋書店 ユサコ	
10	10.12.16	岐阜経済大学	テーマ：大学図書館における電子情報サービスの実際 ネット時代の教育・研究環境と図書館の活用	松島 桂樹	岐阜経済大学
			電子情報サービスの事例報告	安田多香子 野村 千里 夏目弥生子	愛知県立大学 南山大学 名古屋大学
11	11.11.2	名古屋大学	テーマ：著作権法と大学図書館 大学図書館にかかわる著作権問題	石倉 賢一	千葉大学
			電子図書館サービスと著作権	山本 順一	図書館情報大学
11	11.12.7	岐阜女子大学	テーマ：大学図書館と学生用図書 大学教育改革と学生用図書	柴田 正美	三重大学
			事例報告	江口 愛子 吉根佐和子 福井 司郎	浜松医科大学 名古屋市立大学 中京大学
12	13.1.18	愛知教育大学	テーマ：大学図書館における相互協力 大学図書館における相互協力	石井 啓豊	図書館情報大学
			事例報告	平井 芳美 濱口 幾子 加藤 直美	名古屋大学 愛知県立看護大学 愛知工業大学
12	13.3.9	名古屋大学	テーマ：大学図書館の管理・運営 大学図書館の管理・運営	長谷川豊祐	鶴見大学
			コンソーシアムを視野においた大学図書館の運営	松下 鈞	国立音楽大学
13	13.12.20	大同工業大学	テーマ：古文書の整理と保存：電子メディア変換（画像） による利用について 講演 古文書の整理と保存	秋山 晶則	名古屋大学
			事例報告 徳島大学附属図書館貴重資料高精細デジタルアーカイブ - 21世紀地域ネットワークへの試み -	岡田 恵子	徳島大学
13	14.1.24	名古屋大学	テーマ：図書館の電子化と所蔵資料を核とした地域との 連携 デジタル時代の図書館	逸村 裕	名古屋大学
			所蔵資料の高度活用を目指して-地域の博物館・図書館等の連携-	種田 祐司	名古屋市博物館
14	14.12.13	名古屋大学	テーマ：学術情報の電子化を考える 講演 学術情報の電子化が意味するもの-研究者の立場から 考える-	倉田 敬子	慶應義塾大学
			事例報告 名古屋大学における電子ジャーナルの現状について	澄川千賀子・ 川添 真澄	名古屋大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
14	15. 3. 4	名古屋市立大学	テーマ：現代の大学図書館と著作権 講演 現代の大学図書館と著作権	土屋 俊	千葉大学
15	15.12.15	名古屋大学	テーマ：図書館のサービス・マネジメントと評価 講演 図書館のサービス・マネジメント：顧客の選好と評価	永田 治樹	筑波大学
	16. 2.19	椋山女子大学	テーマ：SPARC の現状と SPARC/JAPAN の今後について 講演 SPARC の現状と SPARC/JAPAN の今後について	安達 淳	国立情報学研究所
16	16.12.17	名古屋大学	テーマ：電子的学術情報利用の進展と今後の展望 事例報告 名古屋大学の電子図書館化計画－機関リポジトリ構築計画を中心にして－ 医学系図書館の電子ジャーナル状況と日本医学図書館協会電子ジャーナルコンソーシアムの現状 電子ジャーナルの利点と課題－サイエンス・ダイレクトを例に－	郡司 久 坪内 政義 高橋 昭治	名古屋大学 愛知医科大学 エルゼビアジャパン
	17. 3. 3	ぱるるプラザ GIFU	テーマ：大学図書館におけるアウトソーシング 事例報告 日本福祉大学付属図書館におけるアウトソーシング アウトソーシングを活用した大学図書館運営－立命館大学における現状と課題－ アウトソーサーからみたアウトソーシング	岡崎 佳子 田中 康雄 図書館流通センター	日本福祉大学 立命館大学
17	17.12. 2	中 京 大 学	テーマ：図書館情報リテラシー指導の現状－各大学の事例報告－ 基調講演 大学図書館と情報リテラシー	逸村 裕	名古屋大学
			事例報告 名古屋大学附属図書館における情報リテラシー教育 図書館情報リテラシー教育－小さな図書館、小さな学部での試み－ 中京大学図書館 情報リテラシー教育の現状 ニッチ戦略（隙間産業）で、大学に貢献できる情報リテラシー教育支援を目指す－三重大学附属図書館の取組－ 岐阜県立看護大学図書館における利用教育 大学ポータルを中心とした名古屋学院大学の情報環境	次良丸 章 原 泰子 春日井 正人 杉田 いづみ 井上 貴之 中田 晴美	名古屋大学 名古屋市立大学 中京大学 三重大学 岐阜県立看護大学 名古屋学院大学
	18. 1.30	名古屋大学	テーマ：利用者サイドに立つ図書館サービス 講演 北米大学図書館における利用者中心の図書館サービス 利用者の利用行動に基づいた図書館サービス	シャロン・ドマイヤー 越塚 美加	マサチューセッツ大学 学習院女子大学
18	19. 1.12	岐阜県図書館	テーマ：大学図書館の地域連携 事例報告 相互利用協定と愛知県内図書館の ILL 定期便設置実証実験 静岡県内の大学図書館における連携について 岐阜県における公共図書館との連携図書館 東海目録（TOMcat）：病院図書室と大学図書館の連携 図書館の教育支援、地域支援：豊田高専の英語多読を通して	村上 昇平 大石 博昭 木村 晴茂 坪内 政義 西澤 一	愛知県図書館 静岡大学 岐阜大学 愛知医科大学 豊田工業高等専門学校
	19. 3. 7	名古屋大学	テーマ：Web2.0 時代の図書館サービス 基調講演 Web2.0 時代の図書館 講演 図書館利用者の情報探索活動に関する実証的研究 Web2.0 時代の新たな図書館サービスの展開	岡本 真 寺井 仁 林 賢紀	Academic Resource Guide 名古屋大学 農林水産省

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
19	19.11.28	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル、データベース等） 図書館情報リテラシー教育 ILL 大学図書館の最近の動向・海外事情	雨森 弘行 河谷 宗徳 栗野 容子 紅露 剛 万波 涼子 松林 正己	お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学 南山大学 名古屋市立大学 中部大学
	20. 3. 5	中部大学	テーマ：魅力ある大学図書館をめざして 講演 どこから拓く？ 大学図書館の可能性－学習支援の視点から ここから拓いた－お茶大図書館活性化のための5つの作戦	井上 真琴 茂出木 理子	同志社大学 お茶の水女子大学
20	20.12.22	アクトシティ松浜	テーマ：図書館と著作権 講演 図書館業務と著作権 映像資料の利用と著作権法について	南川 貴宣 三浦 正広	文化庁著作権課 国士舘大学
	21. 3. 4	西尾市岩瀬文庫	テーマ：学芸員の世界 岩瀬文庫見学 講演 学芸員の仕事－内藤記念くすり博物館の世界－ 学芸員の仕事－岩瀬文庫の世界－	野尻 佳与子 林 知左子	内藤記念くすり博物館 西尾市岩瀬文庫
21	21.12. 3	同朋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル、データベース等） 情報リテラシー教育 ILL 大学図書館と広報	雨森 弘行 河谷 宗徳 栗野 容子 久田 睦美 榊原 佐知子 渡邊 敏之	前お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 愛知医科大学 名古屋造形大学
	22. 2.23 22. 3. 5 22. 3.10	名古屋大学	保存修復講演会・講習会 テーマ：図書資料の保存と修復 講演 紙資料の保存修復 講習会 修復実務講習会	金山 正子 岩田 起代子	元興寺文化財研究所 前名古屋産業大学・ 名古屋経営短期大学 図書館
22	22.12. 9	名古屋大学	テーマ：実践で役立つレファレンス・ツール－国立国会図書館提供ツールを中心に－ 講義1 講義2	兼松 芳之	国立国会図書館
	23. 3.16	静岡県男女共同参画センターあざれあ	テーマ：電子書籍を中心とした資料のデジタル化の動向と図書館の今後 講演 変革期のデジタル化と図書館－国立国会図書館の動向を中心に－ 電子書籍の急速な普及と大学図書館	中井 万知子 竹内 比呂也	国立国会図書館関西館 千葉大学
23	23.12.15	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル、データベース等） ILL プレゼンテーション入門 カナダの大学図書館事情	加藤 信哉 河谷 宗徳 堀 友美 万波 涼子 近田 政博 ゴードン・コールマン	名古屋大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 名古屋大学 静岡大学
	24. 3. 8	名古屋大学	テーマ：災害時における危機管理 事例報告 そのとき私たちができたこと－東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災－ 私の東日本大震災体験－図書館の被害と復旧を中心として	小陳 左和子 和知 剛	東北大学 郡山女子大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
24	24.12.15	名古屋大学	テーマ：海外大学図書館にみる学習支援 報告 香港、シンガポール、オーストラリアの大学図書館におけるラーニング・コモンスの整備及び学習支援の現状  講演 大学図書館が実施する学習支援・教育支援サービス 北米の事例から見えるもの パネルディスカッション	山田 政寛 橋 洋平 森部 圭亮 仲秋 雄介 池上 佳芳里 高橋 里江 神谷 知子  長澤 多代  近田 政博 (コーディネーター)	金沢大学 金沢大学 静岡大学 名古屋大学 金沢大学 静岡大学 名古屋大学  三重大学  名古屋大学
	25. 3.13	三 重 大 学	テーマ：図書館資料の補修について 講義 図書館における資料保存の基本的な考え方 実習 簡易な補修 - 破れのつくろい、外れたページの差し込み	大竹 茂  大竹 茂	国立国会図書館  国立国会図書館
25	25.12.13	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 激動の時代を生き抜くために 情報リテラシー教育  ILL(相互貸借) 電子情報(電子ジャーナル、電子ブック、データベース等) 分類・目録 プレゼンテーション入門	白木 俊男 新海 弘之 草間 知美 島田 美津穂 林 和宏  揚野 敏光 近田 政博	富山大学 愛知県立大学  愛知大学 名古屋工業大学  名古屋大学 名古屋大学
	26. 3. 3	名古屋経済大学 (名駅サテライト キャンパス)	テーマ：西洋古典籍資料の整理・保存について 講演 歴史的製本の修理について  洋書の扉	岡本 幸治  高野 彰	製本家、アトリエ・ ド・クレ主宰 元跡見学園女子大学
26	26.12.19	愛知県図書館	テーマ：「機関リポジトリの基礎知識と最新動向」 講演 学術コミュニケーションの動向 機関リポジトリの実務 著作権・学位論文を中心に 事例報告 地域からの事例報告  全体質疑・意見交換	杉田 茂樹 三隅 健一  林 和宏 宮坂 昌樹 鈴木 雅子 (コーディネーター)	千葉大学 北海道大学  名古屋工業大学 愛知大学 静岡大学
	27. 2.16	静岡大学 (浜松キャンパス)	※静岡県大学図書館協議会と共催 テーマ：学生を振り向かせる！伝わるポスター作成術 講演 基礎) ポスター、チラシ、プレゼンテーションに必要な要素 理論) コミュニケーション理論から見た広報 実践) 便利なツール、テクニック、キャッチコピーの つくり方 広報カウンセリング ポスターを作ってみよう	はやのん	理系漫画家
27	27.12. 7	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 「最近の図書館の動向 ～素敵な図書館と素敵なライブラリアンとの出会い～」 情報リテラシー教育 ILL(相互貸借) 電子情報(電子ジャーナル、データベース等) 分類・目録 グループ討議・発表	中村 直美  松森 隆一郎 加藤 直美 吉岡 文 小島 由香	愛知大学  愛知県立大学 愛知工業大学 浜松医科大学 名古屋大学
	28. 3. 7	名古屋外国語大学 名古屋学芸大学	テーマ：伝わる声の出し方・話し方 講演(実習含む)	赤間 裕子	声と話し方コンサル タント

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
28	28.11.22	名古屋大学	テーマ：無線綴じ資料の補修 講演（実習含む）	板倉 正子	特定非営利活動法人 書物の歴史と保存修復に関する研究会
	29. 2. 6	名古屋工業大学	テーマ：古典籍の基礎知識 講演 洋古典籍はどんな姿をしているのか 水田文庫整理にたずさわって 古典籍書誌DBのすすめ	高野 彰 中井 えり子 塩村 耕	元跡見学園女子大学 元名古屋大学 名古屋大学
29	28.11.17	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 レファレンス（現場からの具体的な事例紹介） 図書館若手職員の経験談  これからの図書館に期待するもの 演習 広報・展示：朝刊の記事から pop を作り、2時間以内に 資料を展示－安城市図書館「日めくり展示」にチャ レンジー 担当業務別グループによる討議・発表	佐藤 美穂 井出 直樹 東 槿 典子 鰐部 美香  押樋 良樹	名古屋大学 静岡文化芸術大学 名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学 名古屋大学  図書館コミュニケー ションデザイナー

「東海地区大学図書館協議会誌」掲載記事の電子的公開，転載，学術機関リポジトリでの公開について

- ・著作権は著作者本人にあります。
- ・著作者本人が，ホームページ等で電子的公開，転載，あるいは学術機関リポジトリへ搭載する場合，著作者本人からの申請書等の提出は必要ありません。

(平成19年7月9日 東海地区大学図書館協議会運営委員会(第19-1回)決定)

## 東海地区大学図書館協議会誌 第63号(2018)

平成30年12月26日印刷

平成30年12月28日発行

編集・発行 東海地区大学図書館協議会事務局  
名古屋市千種区不老町 名古屋大学附属図書館内  
電話 052-789-3666

ホームページ <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tokai/>

振込先 三菱東京UFJ銀行今池支店 普通預金 口座 1747229